



### 3. 認証評価「研究活動」「地域貢献活動」で「きわめて良好」（2017年1月～6月）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 洋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/16369">http://hdl.handle.net/10466/16369</a>

### 3. 認証評価「研究活動」「地域貢献活動」で「極めて良好」

(2017年1月～6月) 2017年

1月1日

あけましておめでとうございます。どうぞよい年になりますように。学生歌を参考に。

舟出せば 朝暎(あさひ)に光る 海原の 風さわやかに 吹きなびくかな



1月2日

今では古墳と呼ばれ、森のようにになっているが、完成時には木はなかったという。大陸から船で来た人は、この墳墓を見て、圧倒されただろう。今では人間の中には近寄れないが鳥は自由に往来している。世界遺産に登録されることを願う。学生歌を参考に。

垣根なき 真昼の陵の 常盤木に 百舌鳥たからかに 鳴き翔かん



1月3日

みなさんにとって、「まなびや」ってどれですか？  
全部ですか？(学生歌を参考に)

我が学舎(まなびや)のその名こそ、 我が学園(まなびや)のその名こそ  
我が学苑(まなびや)のその名こそ、 我が学窓(まなびや)のその名こそ

1月4日

一部の教員の方には学振から科研費の審査依頼が来て、お正月もゆっくりできなかったのではないと思う。この審査だが、しっかり申請書を読んで、模範となる意見を書かれた先生には審査委員表彰がなされる。年末、前年度の該当者の知らせが来た。

<http://www.osakafu-u.ac.jp/affiliate-news/nws20161226-2/>

約5,700名の審査委員の中から268名が選考され、本学からは、人間社会システム科学研究科 瀬田和久教授および看護学研究科 細田泰子教授に表彰状が進呈された。科学技術の発展そして本学の名誉のために、今後ともよろしくお願ひします。

1月5日 21日高度リハビリテーション専門職の養成  
長崎大学との合同フォーラム

文科省から支援を受けている、課題解決型高度医療人材養成プログラムの60名限定のフォーラムがある。理学療法士、作業療法士の「要請に携わる方」が対象だ。

総合リハビリテーション学研究科・同学類は府大で最初の履修

文科省  
課題解決型高度医療人材養成プログラム

高度リハビリテーション  
専門職の養成  
大阪府立大学 × 長崎大学  
合同フォーラム

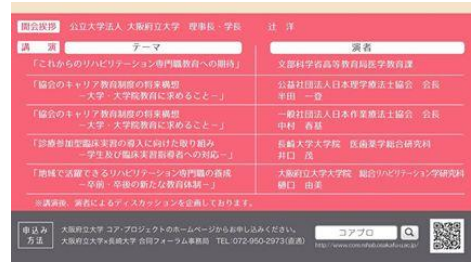
開催日 2017年1月21日(土)  
14:00~17:00

会場 グランフロント大阪  
フレックシアビタル Tower B, 10階

参加費 無料

定員 60名(長崎大学側)

プログラムを用意したり、別途5年制の大学院プログラムにもチャレンジしようとしていたりして、今後の教育の方向を常にそして熱心に考えている。リハビリテーション学を学ぶなら府大を。受験生には自信をもって薦めたい。



1月6日 人面昆虫



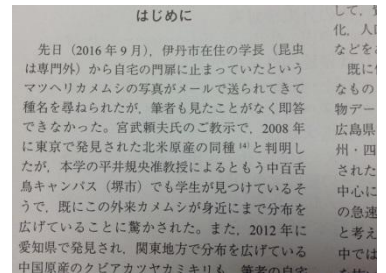
9月に自宅の塀に人面昆虫がいた。形からいってカメムシに思われたが、どういう名前か石井実先生にお聞きした。すると、なんと、

- - これ最近日本に侵入した外来種ですね。マツの害虫で「マツヘリカメムシ」と言います。下記のサイトなどをご参照ください。記録を残したいので、撮影場所を教えていただけますか? - - - -

自宅の住所をお知らせしたところ、このことが先生の書かれた「昆虫と自然」という雑誌の総論「泥沼化する昆虫をめぐる外来生物問題」という論文に記載された。府立大学では、生物を学べる環境がある。生物

を専門としなくても講義を受けたり、ちょっとした発見を相談できる環境がある。動物も植物もそして人に関することもいろいろな側面から。

教職員だけでなく在学生も「幅広い学びができる府大である」ことを受験生に知ってもらうように(機会があれば)してほしい。



1月7日 今年の渡航予定

まだ確定ではないが、3回渡航を計画している。

一つ目は、堺市とパークレー市の交流50周年記念行事で4月末に米国へ。1967年11月3日、堺市・パークレー市姉妹都市提携が結ばれたのだが、それは府大生が65年に堺市長のメッセージを持参したのがきっかけ。UCパークレーとの交流を拓きたい。また、この機会にFLEDGEの指導でお世話になっているニューメキシコ大学も訪問してこようと思っている。

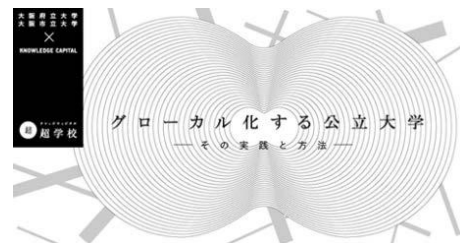
二つ目は7月初旬にドイツ、フランス、オーストリア。国際会議で話す機会を頂けるとのことなのでこの機会に交流協定校をまわりたいと思っている。相変わらずの強行軍になりそうだ。

三つ目は12月中旬にカンボジア。王立プノンペン大学との共催の3回目の国際会議。以前は2011年、2012年だったので5年ぶりになる。

一年の計は元旦にありではないが、有言実行でいきたい。

1月8日 (グランフロント大阪 ナレッジキャピタル)

大阪市立大学の荒川哲男理事長兼学長とナレッジキャピタルでワイン片手に対談します。(1月22日)



1月9日 「住めば都」というのはまんざらではない諺だと思っているけどどうだろう?

先日、休学や退学のデータ分析をしてもらったところ、入学直後に大学に来なくなり、そのまま退学につながるケースが多いようだ。入学したら「まず学校にくる、学んでみる、いろいろな活動

に参加する」ということをして、「やはり違うなあ」と思ったら考え直すのがいいと思う。今は学歴社会でもないし、終身雇用制の社会でもない。学び続ける力をつけることが大切だ。

ちなみに英訳を調べたら次のようであった。

you can get used to living anywhere; home is where you make it; wherever I lay my hat is home

1月10日 学位記授与式の挨拶。

(前略)二つのお願いをしたいと思います。ここにご列席の教育担当副学長の前川寛和先生の談によりますと、英語で現在のことをプレゼントというのは、「本日、我々がこの場にいること自体が神からのプレゼント」というから来ているそうです。このプレゼントをもらったときに、改めてご自身のこれまでの過去を振り返って、反省するとともに今後に向けて、目標を設定していただきたいと思います。

もう一つお願いをしたいと思います。学位論文執筆では、「難しいことを難しく書く」という立場をとりがちです。井上ひさしさんがおっしゃっていますが、ものを書く立場として、「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」という名言があります。ゆかいにというのは、ユーモアを含めてということだそうで、ユーモア (Humor) の語源は、**human** だそうです。また、ゆかいにというのは周囲との共鳴、共振する感受力だそうです。自分だけが興味深いというのではなく、周りに影響を与えて「ゆかいに」という言葉になるそうです。

私の米国の友人は **Influencer** と **Influencee** という言葉をつかって、「お前の **Influencer** は誰で **Influencee** というのは誰か」と聞いてきます。**Influencer** というのは、皆さんの発想法をポジティブ方向に変わるように影響を与えた人であって、**Influencee** は逆に皆さんがポジティブ方向に発想法を変えるように影響を与える人のことをいいます。

もう既に「愉快的発表」をされているかもしれませんが、周りの **Influencee** に影響を与え続ける **Influencer** になって頂きたいと願っています。(後略)

1月11日 留学生OBの活躍

府大留学生の活動をロールモデルとして集めていきたいと思っている。府大を選んだ理由、学生時代の苦労話、卒業後の活躍、今後の抱負など語ってもらえると、在学中の留学生にも今後府大を選ぼうかという留学生にも参考になると思う。



このように思っていたところ、昨年、公開講座「関西経済論」で講演して下さった、経済学研究科 OB の周さんから近況が届いた。月末にお会いしてこようと思う。

-----

世界最大級の自動車分野の展示会である「オートモーティブワールド 2017」にて、  
・ Intelligent Mobility「到来」への潮流　・ AIによる“Top Innovator”への跳躍  
という2つのテーマで登壇する予定でございます（後者は同時開催の「AIカンファレンス」内での開催）。いずれのセッションにも、中国やイスラエルの有力企業の経営者が登壇し、パネルディスカッション形式で、Mobility/AIの最新トレンドについて、議論する予定でございます。小生の基調講演・特別講演での登壇は4年連続であり、例年1,000名以上の方に聴講頂いております。

1月12日　14日、15日はセンター試験

全国では57万5,966人の受験者があるという。昨年に比べ、+2.2%。本学でも2,640名が受験するので、教員・職員がかなり休日出勤して、その監督などにあたる。

天気予報によるとかなり冷えるようだ。受験生は寒さ対策を万全にしてきてほしい。雪ということはないだろうが、仮に交通の遅れがあっても慌てず来てほしい。以前、大阪市立大学が受験会場の学生が大阪府立大学に来てしまったケースもある。受験生の皆さんはくれぐれもお間違えのないように。この二日間は、私も8時前には入り、20時近くまでいる予定。



1月13日　朝食を食べよう！食堂改修のためのご寄付に感謝状

昨年9月に新装なった食堂。このために、後援会と生協から多大なご寄付を頂いた。少し遅くなったが、生協学生委員会の理事にも来ていただき、感謝状をお渡しした。

授与後の歓談では、朝食の大切さの話になった。朝食を食べず、成績が伸び悩んでいる学生さん、朝食を食べるだけで伸びる可能性大きいですよ！飴玉一個、砂糖入りコーヒーでも効果があるようです。

（ご参考1）【生協学生委員会】

生協では、学生、教職員が理事として日常的な運営にあたっています。みんなの要望を実現し、お店やメニューの改善を行っています。

そのパイプ役の一つが、生協学生委員会の活動です。学生の声を生協の運営に反映させる企画や提案活動だけでなく、生協の機関紙「LiPPEN」を発行し生協のことを知らせることやレクリエーション活動に取り組んでいます。また、食生活相談活動や卒業生から電気製品や家具を譲り受け、新入生に譲り渡す「Reuse 広場」の環境活動もすすめています。



1月14日　さくらサイエンスプランの第三回公募で府大1件、府大高専1件が採択。

今年度は全3回で15件申請し、10件が採択になった。アジア諸国との交流を活発化するために、各専攻、各学類でダブルデGREEプログラムの企画をしてほしいと思っている。その第一歩として

候補となる大学の教職員、学生をこのさくらサイエンスを利用して招へいし、相互理解を深めるのがいいと思っている。招へい中は、地域との交流も企画してほしい。世界に翔く地域の信頼拠点として。

今回は人間社会システム科学研究科提案の国立台南大学（台湾）と府大高専提案のダルマプルサダ大学（インドネシア共和国）。ダルマプルサダ大学からは別途研究生の来日も計画されているようだ。

1月15日 関係者の皆さま、お疲れさまでした。

天気予報が気になるセンター試験の二日間であったが無事に終了した。受験生の皆さま、教職員の皆さま、ご家族の皆様、お疲れさまでした。本部解散式で、入試室職員の方々の安堵した顔が印象的だった。



大学入試センター試験は、例年1月13日以降の最初の土曜日・日曜日の2日間と決まっている。平均点は各科目とも6割程度になるように作成されるそうだ。

「センター試験の日は雪がよく降る」と思うが、それは受験者へのアラームのために降雪がある意味過剰に報道されているため、センター試験実施日は毎年異なり、気象学や統計学的にも天候に特定の偏りはないそうだ。



次は、前期、中期、後期日程の個別試験。受験生には体調に特に気を付けて準備をしてほしい。

1月16日 ★★御礼★★ つばさ基金へのご寄付をありがとうございました。

年末 最後の最後までお願いしておりました[「つばさ基金」]ですが、合計423件のご寄付を頂きました。昨年は348件でしたので、大幅に増えました。金額も昨年と比べ400万円強増えました。

11月末時点では大幅減になることが確実と思われていたので、ほっとしています。ありがとうございました。特に12月単月では195%増でした。30日、31日にインターネットとクレジットカードを利用したご寄付も多数あったようです。ただただ感謝です。今後とも大学をご支援いただければ幸いです。よろしくお祈りします。

大切にに使わせていただくとともに 用途はいろいろな広報チャネルを使って お知らせします。

1月17日 Memory of Jan. 17, 1995.

もう22年になるが昨日のようにあの恐怖を覚えている。近くでは新幹線の橋げたが落ちていた。テレビは空を飛び、ウィスキーのボトルは割れ、本箱が倒れてきた。朝の5時47分。

朝早かったのが家族が家の中にいるので安否がわかったのは精神的にはかなり楽だったと振り返る。一方で、当時、携帯電話は稀で公衆電話から同僚の安否を確認するのに手間取った。避難しているであろう体育館に張り紙をしてもらったり、自転車で3時間かけて神戸まで差し入れに行ったりもした。



府大では安否確認システムをポータルに用意している。いざというときにこれを覚えておこう。訓練の時にも入れるようにしてほしい。ちなみに府大では、離れたところで天災や事故があったときにも、出張中の人はいないか、その地の出身者がいないかを調べる体制をとっている。いざというときのために、自助、共助、公助という考え方もしっかり学んでおこう。



1月18日 ★★年頭のあいさつ★★ 大学のグローバル化とよく言われるが10年後の姿は？

長崎の出島というのをご存じだろうか。鎖国時代にオランダの商人たちが活動した地域だ。これとのアナロジーで、日本の大学のグローバル化の一つの形態がオプションとして示されていた。

デフォルメ（強調）していうと、今後の日本の大学のグローバル化とは出島を作ることではないかという（少し寂しい）話だ。このことに関して年頭のあいさつで話をした。皆さん、それぞれが考え、意見交換さらに実行に移すことが大切だと思う。

1月19日 出願期間（1月23日～2月1日）

今年も学域・学類の一般個別試験の願書受付が間近になった。地域保健学域の中に、看護学類、総合リハビリテーション学類、教育福祉学類があるが、以前は「あるのかないのか わかりにくい」と言われてきたが、少しずつ解消してきた。また、生命環境科学域の中の自然科学類の学生にとっては、大学院進学時の標準的なコースが理学系研究科なのにそれが「見えにくい」と言われてきたが、近く、理学類と名称変更する予定だ。

もう5年前のことだ。学域・学類の最初の入試を控えた頃、志願者があるかどうかとても心配していた。高校にも説明に回ったし、大学祭や業者の説明会、予備校さらには留学生向けの予備校にも回って学域・学類の説明をした。

特に自分が学域長予定者だった、現代システム科学域については、説明をすると「とても期待できる」と評価されるのだが、冊子などだけだと、「名称や中身が分かりにくい」と散々言われた（多くの先生と一年以上かけてカリキュラムを作ってきて、育成する人材像なども議論してきて自信はあったのだが）。

そうそう、5年前の年末、年始の頃「志願者がたったの3名」という悪夢を見たりして、とても眠れる体調ではなかった。そのときに個人のFBでポストしたものが「過去の投稿」で出てきたので、このころのことが走馬灯のように蘇った。

今年も多くの願書が出されることを願っている。

-----

どうしようもないと寺社にすがりたくなる。一か所で一願。新年早々4か所回った。これは門戸厄神。42歳の厄を無事に超えられてからよほどのことがない限り、毎年詣でている。17年前は1月16日に行った。震災の前日だった。（2012年1月19日）



1月20日 発信をはじめて一年

「学長室から」というページを開設して一年を経過した。単なる出来事を書くのではなく 自分の感想・意見を入れて毎日一件ずつ、シェアする場合も たとえ短くても コメントを加えてきた。嬉しいニュースがあったときに 一回だけ、一日二件投稿したことがあるが、これは例外だ。



365日ということ、フォロワーが365人を超えればいいなあと思っていたところ、嬉しいことにその目標値を超えた。facebookの仕組みでフォロワー以外の方にも届くがそのアルゴリズムはよくわからない。「もっと届いてほしいのに」と思っても届かなかったり、「こんなネタでなぜ」と思うのに4桁を超えるリーチがあったりする。日本語文に英語が部分的にでも入っていると、リーチが減る（ように感じる）。なぜだろう？

また、悪気なく書いているのだが、誰かを傷つけることがないか、個人情報を知りすぎているか、感情的にならぬような訓練にもなっているかもしれない。半分は英語にしようとしたが、できていない。これからの課題だ。

1月21日 東京同窓会会報に寄稿

役目から、いろいろなところにあいさつ文を依頼されることがある。学会誌にしても何かの冊子にしても巻頭言とかあいさつ文というのは「ないとか何かものたりないが、あってもあまり読まれないのではないか」と思う。一方で、こういう巻頭言やあいさつ文を書く機会を頂くと、そのときに考えていたことを残すチャンスだとも思う。今回紹介するのは、東京同窓会への寄稿。調べてみると去年の11月に書いていたものが印刷されたという。原稿を送った時に編集されている幹事の方から、「タイトルってこれでいいのですか？」と連絡を受けた。結婚するって本当ですか？



1月22日 ナレッジキャピタルのラボカフェで 荒川哲男 大阪市立大学 学長と対談

グランフロントに超学校という公開講座があり、それに市大・府大で「グローバル化する公立大学」と題した連載（全4回）が企画された。



その一回目（1月19日）に招待され、「高度研究型大学：世界に翔く地域の信頼拠点」と題して（ときに笑いを誘うように）お話ししたのち、荒川先生（消化器がご専門）と会場の方を含めて 楽しい質疑の場を持った。ワイン片手のリラックスした形式で、府大からは（試食してもらおうと思い）植物工場産のレタスを持参した（写真に映っているのだがわかるだろうか）。



50名定員のところ、募集開始後 すぐに 満席になったと



いう。仕事帰りの方、在校生の父兄、生涯教育に関心を持っている方、議員、メディアの方、さまざまな方に参加いただけた。少し多めに写真をアップしたが 当日の様子を少しでもうかがい知れるのではないだろうか。期待される大学、期待に応える大学であり続けたい。



#### 1月23日 卒論・修論の原稿が教員に届く頃か？

専攻や学類によって卒論、修論の締め切りは違うだろう。正式な提出日はもちろん、その前に指導教員や副査の先生にもみてもらうので、多くの先生は1月に多忙を極めるのではないだろうか。学生さんもたいへんだが教員も大変な時期だ。教員にとっては、草稿は一度にまとめて出てくるより時差をもって見せてくれる方がチェックしやすい。

1月中旬の土曜日と日曜日はセンター試験。その翌週の日曜日が待ち遠しいのは私だけだろうか？過去のセンター試験直後の日記を見ていると次のようにあった。

早く来い 修論卒論 日曜日 魚心

#### 1月24日 大阪市 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル



文科省が支援する課題解決型高度医療人材養成プログラムのセラピスト養成に関しては、全国で二大学だけが支援を受けている。長崎大学と本学だ。この2大学共同のフォーラムが21日（土）にグランフロントで開催された。

二大学が（パイオニアとして）開発するプログラムを（フォロワーである）他大学に展開することが期待されている。本学のプログラムは 総合リハビリテーション学研究科の先生だけでなく、本学の経済学、人間社会学、工学、情報学など多様な先生の講義が含まれている。このようなプログラムになっていることを 誇りに思っている。

当日は、全国から60名を超える参加者があり、理学療法士、作業療法士の養成のために、行政、臨床、大学の連携の必要性が改めて問われた。セラピストの世界でも「生涯学び続けること」「グローバル化に対応すること」「障がい者だけでなく、対象が広がっていくこと」など幅広い議論がなされて、（その前の土日がなくて疲れていた身であったが）興味深く聞き入ってしまった。

#### 1月25日 和歌山大学と包括連携協定締結（24日）

瀧寛和学長とは、研究分野が同じなので、1980年代からよくお名前を存じ上げていた。ただ、お互いが民間企業の研究者だったこともあり、当時はほとんど話をしたことがなかった。



2011年、オーストリアのグラーツで研究会があり、そのときには二人とも大学教授になっていたのですが、いろいろお話をさせて頂いた。もちろん、お互いにその4年後に学長になっているとは夢にも思っていなかったが・・・。

和歌山大学は観光学で学部から大学院まで一貫した教育課程を持ち、教員も36人と充実している。海外の大物教授をクロスアポイントメントで招へいしているところもすごい。そのため、府大と連携することにより、本学の観光地域創造専攻の院生やマネジメント学類の学生にも学びの幅を広げることができると思う。

観光学分野以外でも工学ではすでに毎年合同シンポジウムを開催しているし、COC+（知の拠点事業）では、今年の夏に共同で和大的岸和田サテライトで集中授業をすることが決まっている。

他にもいろいろ連携できそうで楽しみだ。世界に翔く知の信頼拠点をめざして。



#### 1月26日 六研スタイル（5）

私が研究室をもっていたころは、六番目の研究室ということで、ロッケンと呼ばれていた。

修論・卒論については、次の3種類を書くように指導した。A4で2枚（梗概）、A4で8枚（ジャーナル相当）、そして枚数制約なし（実験データなど付録などに入れることを含め、研究したことを漏れなく掲載。面倒だったかもしれないが、自分のやったことを整理するという意味で当時の学生さんたちにとっては卒業後にも役にたったのではないかと思う。

前職時代、「5分で説明しろといわれたら5分で、15分で説明しろといわれたら15分で、1時間といわれたら1時間しゃべれ」「専門家にしゃべれといわれたら専門家向けに、スポンサーにしゃべれといわれたらそのように、素人にしゃべれといわれたら・・・」ということをよく指導された。

自己表現できるようになること、そのための指導をすることが大切だと思う。

#### 1月27日 関東在住のOBの方へ：

次のお誘いを受け、私も出席予定です。若人優待があるようです。

ちなみに、広島、岡山、名古屋、もちろん、大阪でもやっています。また、女子大、看護大の同窓会やクラブ毎のOB・OG会、業界毎の会合もあり、誘われたら（ダブルブッキングにならない限り）出席するようにしています。

-----記-----

■開催日時 平成29年2月11日（土・祝）

■会場 明治記念館（東京都港区元赤坂2-2-3）「末広の間」「富士の間」

■主催 大阪府立大学 東京同窓会

■年会費 3,000円 ■懇親会費 男性会員 7,000円、女性会員 4,000円

1月28日 府大OBの衆議院議員 瀬戸隆一代議士を訪問

公立大学の現状と改革への取組や大学を起点した地域活性化について応援していただくために昨年、超党派で国公立大学振興議員連盟が発足した。そのなかの公立大学特別委員会の事務局長は瀬戸隆一議員。

本学の経営工学科のOBだ。私は赴任時経営工学科の教授。時期は入れ違いだが、何かの縁を感じる。ちょうど上京のタイミングで時間を頂いたので、議員会館をお伺いした。一度、大学にも講演に来ていただこうと思う。

--- (参考記事)

国公立大学振興議員連盟が発足し、公立大学特別委員会が設置された。2016.05.

5月9日(月)に、衆議院第2議員会館1階多目的会議室において、国立大学振興議員連盟(第6回)が開催され、国公立振興議員連盟への名称変更とともに、公立大学特別委員会(委員長:田村憲久議員、事務局長:瀬戸隆一議員)の新設が承認されました。(後略)



1月29日 さくらサイエンスで台湾ポッチャチームが来日

羽曳野キャンパスの奥田先生、片岡先生が中心になって、台湾のポッチャチームとその関係者を招へい。人社と工学に在籍する二人の台湾からの留学生に通訳してもらって、日本での医科学的な選手強化の取り組みの講義をしたり、光学式三次元動作解析装置などの機器の体験をしてもらった。私も、23日(月)、体育館でPTの一回生と交流していたところをお邪魔し、その後、面談した。

大阪市舞洲にある障がい者スポーツセンターに宿泊していて、そのバス2台で移動しているという。ご家族手作りのパイナップルケーキやキーホルダーをお土産に頂いた。「ご家族の」というのと「手作り」というところで、ご本人だけでなく周辺を含めて喜びまた彼らを支援していることがよくわかる。

多様、融合、国際というのは府大が「世界に翔く地域の信頼拠点」になるために大切にしている視点だ。教職員も学生も卒業生も府大関係者はこの三つの視点「多様、融合、国際」を常に考えてほしい。



1月30日 ほっこり 霞が関店 ~霞ダイニング~

中央官庁勤務のOBと意見交換・懇親会(27日)。2年前に特許庁を見学させていただいたのを機会に、毎年、中央官庁に勤務している府大OBに大学の近況を報告し、大学運営にアドバイスを頂いている。今回、3回目。

学生時代のころの校舎やクラブの話、恩師の話などを聞くとともに最近の府大の嬉しい話、つばさ基金のお礼などをした。アジ



アの若者を招へいするさくらサイエンスはますます規模が大きくなるらしい。府大としてこれを使って、グローバル化を推進したい。

特許庁と厚労省のOBには昨年講義もしていただいたので、聴講した学生も少なくないと思う。学生さんは興味があればキャリアサポート室経由で就職のアドバイスももらえばいいと思う。国交省、公正取引委員会、JSTの先輩にも参加いただいた。今回はあいにくご欠席だったか、文科省、農水省はじめいろいろなところでご活躍だ。OBのネットワークはいろいろなところがあり、それをつなげていこうと思う。

1月31日 府大グッズにいれて東野圭吾さんの著作を読む。

第一回のホームカミングデーの時に配布したという今では手に入らないブックカバー。少し時間があいてしまったが、本学OBの東野圭吾さんの「祈りの幕が下りるとき」を読了。

どの作品も人生の機微が描かれていて、涙を誘う。府大関係者で一冊も読んでいなければ、どの作品からでもいいので、ぜひ、読んでほしい。学長室のとなりの応接室の「辻待ち来ブラリ（まちライブラリー）」でかなりの作品を貸し出している。

彼の作品を読む都度、その昔、松本清張氏の「砂の器」の映画を見た時、音楽にも引きこまれるように涙が出たことを思い出す。多くの人には誰にも知られたくない過去があるのかもしれない。



## 2月1日 構内の自転車の利用

コマの間が10分ということもあり、広い構内で自転車は必要なのだろう。でもスマホを使いながら運転するのは、(皆で監視しあうぐらいのつもりで) やめるべきではないだろうか? ヒヤリハットするニアミスどころか、先日は自損事故もあったらしい。考え事をして歩いている人もいる。急に強い風が吹くこともある。

もちろん、駐輪場所を守る。整列して駐車する。卒業など不要になったら責任もって誰かに譲渡するか、破棄する。こういうことを守ってほしい。



## 2月2日 国家試験に向けて頑張れ

昨日、I-site なんば 2Fで 記者懇談会を行った(これについては後日書く)。3Fのまちライブラリーも紹介しようかなと思って下見に行ったところ、羽曳野キャンパスの看護学類の学生さんたちが多数一緒に勉強していた。一人で勉強するより効率が上がるのだろう。頑張れ!

邪魔をしては悪いと思って記者を案内するのはやめたが、気になったので記者との意見交換の場のために用意していたいちじくタルトとドーナツ(これも総合リハビリテーション学類の学生さんが企画して商品化されたものだ)を差し入れた。その様子をFB用にと写真を撮らせてもらったので結局邪魔をしてしまったことになった(かもしれない)。

I-site なんばをいろいろな方法で在学中から使ってくれるのは嬉しい。まだ訪れたことがない学生さんは、セミナーに参加するのもいいし、まちライブラリーで本を読むのもいいし、ぜひ、来てほしい。



## 2月3日 さくらサイエンスプランで台南大学から来日

先週とは別のグループが台湾から来日。10日間、現代システム科学専攻の皆さんと交流するという。今回も ついつい ポッチャの話になってしまった。卒論・修論の提出や定期試験中なので本学の学生さんの時間は取りにくいかもしれないが、今後の交流に拓がる工夫を(思い切り)してほしい。

そして、学生さんだけでなく、本学の国際交流が「出島」を作らないためには職員の方々も海外からの来客と交流して会話してほしい。さくらサイエンスが招へい者にメリットがあるだけでなく、受け入れ側にもメリットを感じるようになってはじめて 次の交流に展開するだろう。(来年も多くの提案をしていきましょう!)

## 2月4日 南大阪地域大学コンソーシアムの理事長として堺市長を訪問(2月1日)

このコンソーシアムは平成14年に設立されたもので、南大阪地域(大和川周辺及び以南の地域で大阪府域だけでなく和歌山を含む)の大学からなる。

堺市には多大なご支援・ご協力をいただいているので、瀧和歌山大学長、牧野桃山学院大学長らとともに、竹山修身市長を訪問し、現況を報告した。

堺市役所前の広場は今整備中で、9月にはこれが終わるといふ。その頃、合同大学祭をしてはどうかという話が以前から出ている。やるなら早めに学生さんたちと相談しなければならない。9月上旬は休みだし暑いし、10月になると白鷺祭の準備で忙しくなるし、どうだろう？学生さんと早めに相談しなければならない。

注) 南大阪大学コンソーシアム

目的は、地域全体の教育・学術研究機能の向上を図るとともに、その成果を地域社会に還元し、地域の発展に貢献することにある。そのために、各大学の特性を活かしながら相互の連携をさらに深め、地域社会や産業界と協力しあって、多様なニーズに対応した教育・研究事業をはじめ、生涯学習環境の充実、大学や地域との間の情報交流などに取り組んでいる。



## 2月5日 記者懇談会

府大の顔となることを期待している キーププロジェクトについて 記者の方々に 説明し、いろいろな ご意見を 頂きました。近い将来、取材を受けるようになればいいなあ と 願っています。

(素人の) 私が (玄人の) 先生方のお話を 事前に聞いて、当日まず、私が (あたかも玄人かのように) 記者の方に 説明しました。誤った説明や舌足らずの紹介も多々あったので、私の説明後に 先生にも登場してもらい、対談形式で 修正してもらおうとともに 補足説明を お願いしました。

その後は、先生方が ポスターを使って、記者の方個別に 説明をし、いろいろな意見交換が できました。私の説明時には 関心も持ち切れて頂けなかった記者の方も 先生方の説明には食いつかれているようで このような会の意義を感じることもできました。



## 2月6日 Bio Medical Forum 2017 at OCU Abeno Campus.

大阪バイオ戦略推進会議というのがあって、知事・市長をはじめ産学官の関係者が集まって、オール大阪で取り組むことになっている。この動きに対する本学の受け皿は、21機構に設置している、バイオメディカルフォーラムだ。

今週末、大阪市大と一緒に 同大学の阿倍野キャンパスで 一大イベントがある。大学院生も 計72件のポスター発表を行う。両大学での取り組みをお互いに理解し、協力してブレークスルーを見つけることを期待している。



注) 大阪バイオ戦略推進会議

○国家戦略特区等による規制改革事項を活用した先端的な医薬品・医療機器・再生医療等製品等の研究開発などの実用化に向けた取組推進、及び特区のインセンティブなどを活用したライフサイエンス関連企業等の集積促進

○PMDA 関西支部の相談機能の積極的活用により、審査など更なる機能拡充をめざしつつ、同関西支部と、AMED 創薬支援戦略部が本部機能を担う「創薬支援ネットワーク」の支援機能を最大限活用し、医薬品・医療機器・再生医療等製品などの早期実用化を促進

○医療クラスターの形成をはじめ、革新的な研究開発・事業化推進やベンチャー等への支援強化など、オール大阪での産学官連携による取組推進

2月7日 府大生は「火のつきにくい”炭”か」、なら早めに乾燥させよう！

先日 ある人（複数）と「府大生のイメージってどんなだろう。どう言われているのだろう」という話をしていた。「伸びしろがある」とか「真面目」とか いろいろなイメージの議論や評判の情報交換になったが、その中で、「火のつきにくい炭だ」という話があった。私は初めて聞いた。

その意味は、「なかなか 火がつかないが、一度 ついたら、長い間 燃え続ける」ということだそう。どうだろう？ガソリンのように ちょっとしたことでも 大爆発して 一瞬に燃え尽きるよりいいと考えようか。一瞬悪い評価のように受け取ってしまったが、「長い間」とか「燃え続ける」というのはいい評価のように思える。湿っていて火がつきにくいというなら、乾燥させることを皆でやってみようか。

もちろん、多様な学生さんがいるわけだから、一言で表すことなんてできないが、こういう議論からは 考えさせられることが多い。

2月8日 4月21日（金）にサンフランシスコで府大OB同窓会（？）

4月に渡米する予定だ。パークレー市と堺市の交流50周年記念行事に同行し、パークレー大学を訪問するほか、24日にはアルバカーキにも行ってニューメキシコ大学を訪問する。19日はアトランタでジョージア大学を訪問予定。（海外に行くとも複数個所を短時間で動き回っている気がする）

シリコンバレーもあるベイエリアには府大OBもたくさん駐在しておられるのではないだろうか？少なくとも数名は集まってもらえそうなので、会食する予定だ。21日（金）。「声をかければ全米から集まってくれるのではないか」というウソのような話も聞こえてくる。（こう思ってもらえるだけでもうれしい）

もし、ベイエリアにおられる府大OBの情報をお持ちなら一報をお願いしたい。世界に翔いて活躍されているOBとネットワークができて、大学の国際交流の活性化につながるならこれほど嬉しいことはない。

2月9日 マラヤ大学と国際交流協定調印（1月18日）

少し前の話になるが、次のお二方が来校され、面談した。

・Professor Dr. Kamila Ghazali, Associate Vice Chancellor (International)



・ Professor Dr. Noorsaadah Abd Rahman, Deputy Vice-Chancellor (Research & Innovation)

マレーシアのトップ校で日本の国立大学や有名私学とも多数協定をもっている一方、本学は強いパイプをもっているわけではないので、府大とのパートナーになれるのかどうかは疑問に感じないこともない。

来校者がバイオ化学の関係者だったので、理学系研究科で窓口になってもらって可能性を探ることにした。私としては、まずさくらサイエンスプログラムを使って先方の留学希望者を10日程度招へいし、修士のダブルデGREEプログラムを作ればと願っている。こういう提案をしたところ、「とても具体的だ」と喜んでもらえた。

一番驚いたのは大きなとても大きな旅行鞆をそれぞれ二つずつ持って移動されていたことだ（こんなことに目が行くのはおかしいだろうか）。

2月10日 荒川哲男大阪市大学長はじめ医学研究科関係者をりんくうキャンパスにご招待（1月18日）

これも少し前の話になる。近くにあるのに大阪市立大学の医学関係者と本学の獣医学関係者の交流があまり活発でなかったことが分かったので、荒川学長に「一度来ていただけませんか」

とお声かけをしたところ、すぐ実現した。（鳥や豚に絡むインフルエンザなど）感染症関係の研究は、人間から見るか、動物から見るとの違いがあっても研究対象は同じのはずだ。

まずお互いを知る。そして、シナジー（ $1 + 1 > 2$ ）が出るところで共同研究を行う。そして、人材育成（教育）でも協働する。多少時間がかかってもステップを踏んで未来を描くことが大切だ。よその大学ではできないことを。



2月11日 休学者数は学生数の2.5%

皆さんは、府大の休学者がどれくらいどういう理由でいるかご存じだろうか。毎年150名程度で推移しているので、学生数の約2.5%だ。

文科省が平成26年9月に出した報道発表では、国立大学平均2.6%、公立大学平均2.5%、私立大学平均2.1%なので全国的に見て平均だ。

休学の理由のもっとも多いのが「留学」、次いで「経済的理由」。この二つで全体の約半数を占めている。（留学による休学は別にして）一度休学すると退学・除籍につながりやすいこともデータが示している。

少しでも休学・退学者数が減るように、休学理由をカテゴリわけし、相談体制に厚みを持たせていく。悩んだら、学生アドバイザー、指導教員に相談したり、学生課に来て遠慮なく相談してほしい。また、休学しなくても留学できるような「認定留学制度」も作った。これについても活用を考えてほしい。

2月12日 理系女子大学院生チーム (IRIS)第7期募集

第一次募集の締め切りは2月28日です。4月にも募集があります。ここでの紹介が遅れて2月の説明会は終わっていますが、科学の魅力・研究のおもしろさを小・中・高校生に伝えたい院生に



応募してほしいと願っています。今まで知らなかった人と一緒に企画・運営し、一緒に成長することができると思います。

2月13日 若い起業家も 東京同窓会の総会・新年会（明治記念館）

総合科学科卒の内片 輝 氏の講演をお聞きしたのち、上野 首都大学東京 学長や大阪府・堺市の 東京事務所の方々をお招きした新年会があった。当日は 米原付近の大雪で 新幹線に遅れが出たが、大学関係者は 各自早めに出発したようで 定刻には揃っていた。

内片氏は もともと 朝日放送にお勤めで 今は 独立されたドラマ監督。相棒も 担当されていて 水谷豊さんのエピソードも お聞きできた。

こういう同窓会というと 年配の人ばかりと 思われているかもしれない。確かに 数年前は そうだった。しかし、関係者が いろいろ工夫をされて、若い人や お子様連れも 増えている。とても 嬉しいことだ。例えば、

LiveDeli の演奏サービス（写真3枚目）をはじめた 安達君（現シス・知識情報）やマルチ リンガル キャスティングをはじめた トライフル社の 久野さん（写真6枚目、工・化工）、アフリカ インキュベータの 杉山君（在学中に 国際交流サークル オリオンを立ち上げた、理・情報数理）にもあえて、楽しいひと時でした。

全員を紹介出来なくて ごめんなさい。先輩方には、彼ら若い起業家をご支援いただきたい。

2月14日 応募（第一回審査向け）学内締切は17日。

先日、さくらサイエンスプランで来校した台南大学との交流の話が中国語で掲載されると連絡を受けた。中国語を勉強したことはないけど、漢字からなんとなく書かれていることが推測できる。喜ばれているようでうれしい。

アジアの大学との交流の足掛かりとしたり、深化していったりするには絶好のプログラムだ。短期間の交流からダブルデGREEプログラムができることを切に切に願っている。

2月15日 学長顕彰候補者の募集

例年 2回 募集している。大規模なのは 白鷺祭期間中の表彰だ。対象期間が長く 対象者が多い。一方、今回の募集は、その（初秋の）募集以降 2月末までの期間で、次の白鷺祭の時には 修了・卒業している学生だけを対象にする。

（理系大学院生の）学会発表や（体育会系の）クラブ活動については 先生が気にしてくれているためか、毎年 提案が 増えている。一方で、学部生や文系、羽曳野 C の応募が 少ない。遠慮さ

理系女子大学院生チーム  
IRIS (アイリス)  
第7期生募集

「一歩先を踏み、研究の先んずけを目指す」「一人ひとりで活躍、連携する」「他校とも一緒に成長する」

募集期間：2月13日(水)～2月17日(月)  
選考期間：2月18日(火)～2月22日(土)

募集要項：募集定員：10名以内  
応募資格：在学している理系女子学生  
応募方法：募集要項をダウンロードし、応募書類を提出する。



れているのかもしれないが、可能性がありそうなら、先生なり 事務職員に 相談してほしい。きっと もっと 対象者がいるはずだ。

課外活動関係は、中百舌鳥 C は 24 日、羽曳野 C、りんくう C は 17 日 締め切り)。そのほか 研究活動・ボランティアなどは 22 日 締め切り。提案を急いでほしい。

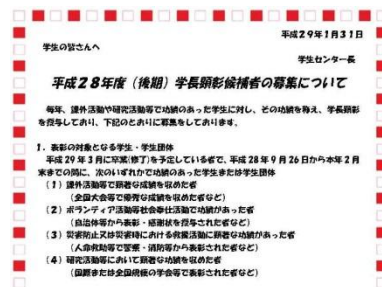
- 1. 表彰の対象となる学生・学生団体 画像にあるとおり。
- 2. 応募方法

(1) の該当者 (課外活動関係で クラブに所属する場合)

- 中百舌鳥Cの学生：表彰状のコピー等必要書類を添えて、文化部連合 又は 体育会を通じて 24 日 (金) までに学生課に提出。
- 羽曳野Cの学生：事務所学生 Gr へ提出 (2 月 17 日(金)まで)
- りんくうCの学生：事務所学生・教務担当へ提出 (同上)

(2) ~ (4) および (1) でクラブ以外の 課外活動関係の 該当者

指導教員を通じて、表彰状のコピー等必要書類を添えて 22 日 (水) までに各学域支援室へ提出。



2月16日 東京や梅田で就活するとき

以前、テレビである女子大の就活支援の紹介があった。夜行バスで東京に着いたときに着替えができた、化粧ができた、荷物を預かってくれるというものだ。

「こういうのは私学だからできるのだろうか」「本学ではなあ・・・」とか思った記憶がある。「でもであると喜ばれるだろうな」とも。

さて、先日、キャリアサポート室がそのようなサービスをしている会社と契約したという。2月1日から使えるようになっているようだ。何かの時にこういうサービスを受けられるというのを記憶しておくといい。予約はいらぬが、学生証は必要だ。



2月17日 手荷物チェックイン

春休みになると 海外に旅行に出かける学生さんも多いと思う。大きなバッグを複数持っている場合もあれば、比較的小さなバッグもあると思う。

10年ぐらい前、短期間の出張だったので 手荷物だけでチェックインの行列を 待っていた。そうすると、大きな荷物を複数引いて 小さな子連れの女性が近づいてきた。そして、「あなたは チェックインするバグゲージが ありませんよね？一人一つのバグゲージしかチェックインできないので、私の荷物を あなたが 一つチェックインしてくれませんか」との (困っているのを 助けてくれ と いわんばかりの) 依頼。子供は 疲れたような顔をしている。

こういう場面で皆さんは、断ることができますか？断らなければならないと知っていますか？中身のわからないバグゲージ 絶対に誰かの代わりにフライトにチェックインすることはしないよう

に。その荷物には 何が入っているかわからないし、万一、(麻薬などの) 違法のものが入っていて海外の入国審査でひっかかると 二度と帰ってこれない。実際そういうケースを報道でも紹介している。

海外旅行にはどんどん出てほしいが、リスクについてはよく勉強しておいて安全に帰ってきてほしい。クアラルンプールの事件を聞き、ふと思い出した。記憶って面白い。

## 2月18日 加賀恭一郎シリーズ全10巻

先週末(10-11日)上京だったので、久しぶりに 東野圭吾さんの「悪意」を読んだ。加賀シリーズの 第三の事件だ。加賀さんが 昔教師をしていたことを 初めて知った。次は 第一の事件の「卒業」。刑事になる前の 大学生時代の 話らしい。

府大生、教職員、OBの皆さん、まだ読まれていないならぜひ、「読みだすととまらない」というのを体感できる。

大阪府立大学の OB の 東野さん。(超多忙とはお聞きしているが) 一度、大学に来て後輩に話をしてもらえないかな？



## 2月19日 前職・会社の府大OBと懇談(10日)

少し前の話だが、上京することがあって、私が 24年間 お世話になっていた会社のリクレーターに「何人か府大OBにお会いできませんかね。G社のOB会に呼ばれたときは〇〇名集まってくれました」というメールを入れた。「5人くらい集まってもらえれば」と思っていたところ、20人を超える方が 会いに来てくれた(当日は、Happy Friday で休日だったと後でわかって、ますます 恐縮している)。30分程度スライド(一部を下記におく)を用いて 自己紹介や 府大の近況を 話したのち、会食した(安くておいしかった)。

半数以上の方は 私が退職して後の 入社。退職して 15年も経つものだから 当然かもしれない。逆に 半数近くの方は 私が府大に来る前に 卒業されている。だから 私が知らない話も いろいろ 聞くことができた。

在学生、保護者、卒業生、教職員、・・・、いろいろな方の声を聴くことが大切だし、府大だけでなく 今の日本の大学をとりまく環境を説明することが責務だと思っている。その一環として、東京、広島、岡山、名古屋の同窓会だけでなく、いろいろな単位のOBの集まりには 時間が取れる限り伺うことにしているし、今後もそのつもりだ。

## 2月20日 オープンアクセス講演会

日時：2月22日(水) 13時30分-15時10分

場所：なかもず B3棟117大講義室、はびきの L305室  
りんくう A103会議室、高専 図書館ゼミナール室



### 自己紹介

- ・1953年広島生まれ、兵庫育ち、京都で学生、川崎で勤める。小学校時に一時、代官山・代々木。
- ・企業研究者(24年)と大学教員(15年)。
- ・関西勤務(24年)と関東勤務(15年)。
- ・文系研究者、リケジョ、海外研究者との共同研究は企業時代から。
- ・2002年から府大、民間時代24年で12回転居。
- ・フランスとカンボジアの国際交流は自分の自慢。
- ・選挙で選ばれたことがない。
- ・社は社ではない(学長になって一番のショック)。



法人として、研究成果を広く無償で公開するために「公立大学法人大阪府立大学オープンアクセス方針」（公立大学で初）を策定した。この4月からは、発行された学術研究成果をオープンアクセスとし、それができない場合は適用除外を届けることになる。

当日は、最初に文科省の林和弘上席研究官から「研究者視点から見たオープンアクセスと最近の動向」と題した講演を頂いたのち、本学の萩原弘子図書館長からこのオープンアクセスの必要性和新年度からの実施概要について報告がある。学外からも図書館関係者を中心に20名強の方に参加頂けるといふ。教職員はじめ、研究者を目指す学生さんも理解を進めてほしい。

2月21日ラオス国立大学からの来訪。

Guests from National University of Laos on Feb. 20th.

Using Sakura Science project, Prof. Matsuura invites two faculty members and five undergraduates. Although they are tired because of night flight and traffic interruption, they kindly make courtesy call on my office.



未明に韓国仁川空港に到着し、そこを經由して来阪。強風のため空港橋が不通になっていたそうだが、雨の中、学長室を訪問してくれた。ひさびさに360度カメラで記念撮影。化学、生物学、物理学の学生たちだ。放射線研究センターの先生や学生と交流するとともに堺市内を見学するという。ラオス・ビエンチャンには行ったことがない。いつの日が行ければと思う。

2月22日 4月に話した 辞令交付時の挨拶の思い出

年度末が近づき、学位記授与式、入学式、辞令交付式などの挨拶を少しずつ考え出している。昨年話したことを思い出するために、新規採用者への辞令交付や管理職への辞令交付で何をお話していたかを読み直した。ある会社の過重労働の問題が報道を賑わせる前のことだ。

個別にはいろいろな方に私の考えを伝えてきた。このfacebookにおいても（メリハリの）語源を紹介しながら、メリハリをつける大切さを訴えてきた。以前管理職の方にお問い合わせしたことを振り返ったが、今回は新規採用者への辞令交付時の挨拶を読み直した。

----辞令交付時の挨拶-----

さて、今朝、新たに理事3名、管理職員24名に辞令交付を行いました。（中略）

最後の三つ目は、「リスク」について厳しい目を持ってほしいということです。リスクにはいろいろあります。地震・津波などの自然災害だけでなく、防犯・防火、さらには劇毒物の管理、情報セキュリティの問題、ハラスメントの問題、健康管理などがあります。昨年度は入試出題ミス、採点ミスも発生してしまいました。それも一度ならず繰り返してしまいました。痛恨の極みです。

大学としても逐次対策を出して来ておりますが、研究公正については、「RI」というレポートをまとめていただきました。耐震工事についても計画的に進めています。

今年度は特に、サービス管理をしっかりとさせたいと思います。大学の教員はともすれば教育研究の自由が先行して、サービス管理については軽視しがちですが、毎日何時間勤務したか、出張したならどこになぜ行って誰と面会したかなどきちんと記録を残すようにしてください。このことがわが身を守ることになります。サービス管理を見直すのは、「教育研究を拘束する」ということ

ではなく、逆に「より自由に 教育研究できるように リスクを排除する」ということです。(後略)

## 2月23日 前期一般入試(25日)

今年の入試は土曜日だ。休日なので公共交通の混雑はないが、本数が減るので注意してほしい。受験生はもちろん緊張してくるが、教職員も緊張してその日を迎える。無事終わって当たり前。

残念なことでお詫びもしてきたが、本学は、この数年、大小さまざまなミスをおかしてしまった。関係者は万全を期しているとは思いますが、前日、当日も再度点検してほしい。

## 2月24日 学生自治会との懇談(22日)

中百舌鳥キャンパスと りんくうキャンパスに対する 学生のアンケートから大学に対する要望が まとまったというので 自治会の代表の学生さんと 面談した。

2016年度の要望項目は 次の4つからなる。

(1)成績開示、(2)学費、(3)設備、(4)受講申請

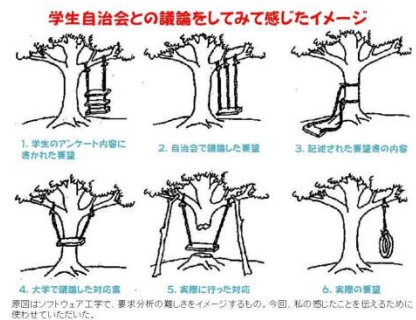
回答は 各事務課で検討し 4月末までに行うことになっている。当日は あわせて 2015年度の要望についても お聞きした。熱心に 大学の改善を提案してくれることは 嬉しいし、今後も 期待している。一方で、私は、

(1) 旧態依然とした「アンケート⇒(慎重に)とりまとめ⇒(体裁の良いそして多くはハードルの高い)要望書提出⇒大学での(慎重かつノン・ポジティブな)検討⇒(数か月おいて)回答」という手順に 拘りすぎていないか?つまり(敵対関係とまではいわないが)形式的すぎないか。

(2) もっと 学生と大学で インタラクションを多くして、できることを(協力して)どんどん改善していくようにならないものか?つまり 他大学の状況なども調査し、もっと 実践重視でできないか。

という印象を もった。実際は 実践重視で 動いているのかもしれないが、そう感じざるをえない場だった。どうだろう?

ふと、ソフトウェアを開発するときの 要求分析の難しさとのアナロジーが頭をよぎった。絵にしてみると 次のような気が残った。絵だけで通じるだろうか。



## 2月25日 関西経済論XXIII 受講生募集開始

毎年 1000 人規模の方に受講いただく公開講座「関西経済論」。平成29年度の講師が内定して、募集を開始した。

講座が開催される 4月~7月の木曜日はなかもずキャンパスの人口が 20%増え、平均年齢が 10 歳 程度あがるという驚異の公開講座だ。全 15 回。3月 17 日までにハガキまたはメールで応募。

今年も多くの方が応募されることを期待している。私は、(役得なのだろうが) 有名な方と一緒に写真を撮らせて頂いたり、色紙を書いていただいたり、講演前に一緒に食事をしながら秘話を聞かせて頂いたりできるので、とても楽しみにしている。

2月26日 大学本部、3月6日（月）から A11 棟 2階に  
近く 部屋を 移ります。3日（金）は 梱包作業になり、6日  
（月）午前は 開梱作業になります。なかもず門を入れて すぐ 右  
手の建物 A11 棟です。お間違えの無いように お願いします。  
皆様のお越しを お待ちしています。 ちなみに 総合企画課、  
広報課、財務課は 一緒に建物を移動しますが、人事課は もう一  
年 A1 棟に 残ります。



2月27日

今年も学位記授与式の日（毎年3月24日と決まっ  
ている）が近づいてきた。春は近い。少しでも記憶に残  
ってもらえるような式辞を準備しようと思う。今年度  
も式の模様を「USTREAM」にてインターネット中継  
配信する。参加できない方には雰囲気だけでも垣間見  
ていただきたい。



2月28日 大阪府の一般会計予算は、3兆866億円

皆さんは、大阪府の予算や大学の予算がどれくらいかご存じだろうか。大阪府の予算は先日発表された。それによると、一般会計が3.08兆円、特別会計が1.3兆円、あわせると4.4兆円にもなるものだ。それでも前年比は92%。

人件費だけでも7,000億円を超える。小中高校の教職員や警察職員が6万7千人いることからそうなんものなのだろう。一般施策経費や1.71兆円。中小企業向け制度融資預託金が3,217億円、高齢者医療関係費が2,166億円、私学関係助成が879億円。

大学を所管する府民文化部は今年度1,215億円だったのが、来年度は213億円になる。これは私学助成が教育庁に移管されたためだ。この213億円の中で府大と高専の運営支援が（施設整備費補助金や就学支援事業費含めると）130億円。つまり、府民文化部の半分以上が大学の事業費だ。

予算のこともときどき紹介するようにしようと思う。

3月1日

2年前に教え子が立ち寄ってくれた時、個人のページに書いたことです。親切にも「思い出せ」とFBが言ってくれました。人工知能にも職を取られていくという予測もあるけど、(府大でしっかり勉強すれば)悲観的になることはないと思っています。

---「インドに4年間赴任して このたび 帰国した卒業生は 言う。今後 日本企業が日本人を海外に派遣する機会は 減り、現地の人を もっと 雇うようになるだろう。幹部も 現地の人になっていくだろう。一方、日本のオフィスでも 海外の人を もっと雇用するだろう。幹部にも 海外の人を登用するであろう。すると 海外でも 国内でも 日本人のポジションは 減るのではないだろうか。」

結構 正しい指摘のように思う。こういうことが 予想されるとき 大学の教育を どうしていくのか、あまり ゆっくりとは していられないように思う。



3月2日 インドからの来客

統計を勉強したら マハラノビス距離 という言葉を知っていると思う。2点間の距離が 通常の距離としたら、これは、集合間の距離を 定義するものだ。集合の中心(平均)と集合の散らばり具合(分散)をもとに 計算するので 一般化された距離といえる。

このマハラノビス先生が設立したのがインド統計大学(インド統計解析研究所)。そこのパターン認識の Utpal Grain 教授が 学振のプログラムで滞在されている(本学キーププロジェクトの黄瀬先生が招へい)。彼は 私の元職場の先輩を来週訪問する(東京:国分寺)という。将来の府大の顔となってほしい、キーププロジェクト。国際的なネットワークが広がりつつあることを 感じる。

週末、部屋を移動するので、その記念もあり、A1棟の玄関で記念撮影した。

3月3日 下駄をならして奴が来る

私と同世代なら 思い出の深い歌だと思う。その カマヤツさんが 亡くなった。

今と違って 私の時は 大家さんの2階や 離れに下宿することが 普通だった。私の場合は、大家さんの作業場の2階。そこに 4畳半間が二部屋と 三畳間が二部屋あって、その一部屋に 間借りしていた。風呂は 銭湯、トイレは 共用、キッチンは なしなので 食事は外食。

毎晩のように 入れ代わり 立ち代わり 友人、先輩、後輩が来たり、逆に 私が 彼らのところに行ったりしていた。その何人かは ゲタ。階段を あがってくる足音で 同宿人なのか 友人なのか 先輩なのかが わかる。「あっ、また来やがった」

下駄をならして奴がくる  
腰に手ぬぐいぶらさげて  
学生服にしみこんだ  
男の臭いがやってくる  
アー夢よ よき友よ  
おまえ今頃の空の下で  
俺とおんなじあの星みつめて何想う  
  
可愛いあの娘に声かけられて  
頬をそめてたうぶな奴  
語り明かせば下宿屋の  
おばさん酒持ってやってくる  
アー恋よ 良き友よ  
俺は今でもこの町に住んで  
女房子供に手を焼きながらも生きている

たまに遅くまで議論をしていると（うるさかっただろうに）大家のおばさんが お酒やおつまみを差し入れてくれた。電話も（受けるだけだが）大家さんのを使わせてもらっていた。「辻君、電話やで」。

ムッシュの訃報を聞いて ふと 下宿時代のことを いろいろ思い出した。合掌。

### 3月4日 大阪検定一級合格者による研究発表会

大阪検定一級合格者には、ご希望により、大阪府立大学の大阪検定客員研究員に任命している。そして、観光地域創造専攻の橋爪紳也教授がアドバイスして「大阪の観光および観光産業」に資する研究活動を行っている。今年も新たな観光資源となりうる大阪の魅力を紹介する報告会を開催する。以前からこの報告会（無料）に参加しているがなかなか面白い。

開催日時： 2017年3月25日（土）

開催時間： 12:30～16:30（開場：12:00）

場所： 大阪歴史博物館 4階講堂



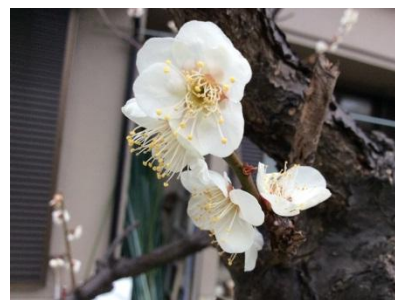
### 3月5日 啓蟄

本日は 啓蟄（けいちつ）。だいぶ暖かくなったように感じる。それらしい写真を撮ろうとしてなかなか撮れず、危うく 校友会の理事会・評議員会に遅れそうになった。見つけたのは ナメクジとダンゴムシ（この写真だけなら あんまりなので 梅も）。

「啓」は「開く」、「蟄」は「虫などが 土中に 隠れ閉じこもる」意で、「啓蟄」で「冬籠りの虫が 這い出る」。英語でいうときは、その意味を 直接書くしかないそうだ。

The season when wintering insects come out of hibernation has just started.

最近 は 季節感が薄くなったというが、学位記授与式を前に 春の足音が 確かに 聞こえる。



### 3月6日 インドネシアからさくらサイエンスプランで来校

府大高専の申請で ダルマプルサダ大学から 講師の先生が9人の学生を引率して 来阪していて、帰国日に 府大に 立ち寄ってくれた。文学部、工学部、経済学部と いろいろな所属の学生さんたちで、学内で（多数の希望者の中から）選抜されたそうだ。

日本語も 英語も できるので 驚いた。聞くところによると、同大学では どの学部であっても日本語三級を取得しないと 卒業できないらしい。また、日本のアニメは 人気らしい。たこ焼きも食べたという。

Wikipediaによると、同大学は、1986年にインドネシア・日本友好協会（PPIJ）と インドネシア元日本留学生協会（PERSADA）が協力し、イ・日両国への感謝の証として 設立した 私立大学である。元日本留学生が中心となり、その経験を 母国の発展に生かすために設立された大学は 世界的にも非常に珍しい。2016年には 創立30周年を迎えている。



3月7日 ノルウェー科学技術大学 (NTNU) と国際交流協定を更新  
本学とノルウェーとの交流は長い。1980年代前半に 最初に  
招へいた客員研究員 (第一号) はノルウェーの先生だったと聞いている。

今回、「多糖の資源活用と機能探求に向けて」というセミナーを I-site  
で 実施する機会に (京都に滞在中であったが) クリステンセン学部長  
に I-wing まで足を延ばして頂き、協定を更新した。I-wing のロゴの  
「g」や「∞」の意図するところを 説明したら とても喜んでいただけた。



本学の生命環境科学研究科の大学院 2 回生と学域 4 回生二人  
は 同大学に交換留学 (63 日と 31 日) していたこともあり 調  
印式に参加してくれた。聞いてみると、府大より、教員と学生  
の距離が近かったということだ。先方が 助成金を申請し 確保  
して 留学が実現されたという。

NTNU から工学研究科に交換留学している修士の女子学  
生も 参加してくれた。日本語が だいぶ うまくなっている。

点と点のつながりだけではなく、面と面のしながりに なっていくと 嬉しい。NTNU に限らず、  
国際交流を進めていく目標は (当面) ダブルデGREEだ。

3月8日 年度末で部屋を整理する皆さんへ (再掲)

以前、卒業される皆さんに自転車等放置することなく、「後を濁さず」に翔くことをお願いした。  
もう一つお願いだ。学生さんだけでなく、退職される先生方にもお願いしたい。古本募金だ。

間違っても大学の研究室に (自分に管理責任のある) 本を放置して退職・卒業することは控えて  
ほしい。(逆に言うと、残念だがそういう方がおられるのは事実だ)。図書館に戻すものは戻す。破  
棄するものは破棄する。寄付できるものは寄付する。整理する時間は十分あるはずだ。

-----  
就職支援事業のための「古本募金」のお誘い

「寄付していただくことで、書棚に眠っている本を生き返らせ、母校の学生たちを支援することが  
できます」という校友会の古本募金。皆さんの家の書棚に眠って目覚めることのない本はありま  
せんか? もちろん、卒業生だけでなく、在学生、現教職員、近隣の方でもこのサポートに貢献でき  
ます。

ISBN がついていて 5 冊以上なら送料はかからない、DVD や CD も OK、書き込みがあっても  
OK、売れなかった場合は高齢者社会福祉施設や海外の研究機関などに寄贈するので役立つようリ  
ユースされる。もちろん、なるべくきれいなものが好ましいですが、貴重書は、この古本募金では  
なく、別ルートで (ちゃんと価値が評価できる人に適切な価格で購入していただき) 再利用するこ  
とが望ましいと考えています。

申し込みは Web で可能です。簡単です。よろしくお願いします。

3月9日 米国ジョージア大学から A, Tiwana 教授来校

2003年、CACM (という私の分野では基本の雑誌) の論文を読んでいて、その著者に会いたくなり、アトランタのエモリー大学 (コカコーラ社が設立) を訪問した。もう14年も前のことだ (写真は当時、お互い若い)。出てきたのは若い Assistant Professor。年齢に関係なく、意気投合した。



共同研究の申請を 当方で行って、何回か 採択になり、その都度 (ほぼ毎年)、招聘したり 訪問してきた。だから、私の研究室の卒業生は 皆 彼のことを知っている。そして、CACM はじめ お互いに共著で論文を出したり、お互いの大学で 講義をしたりした。

その後、彼は エモリー大学から Associate Professor としてアイオワ州立大学に移り、さらに Professor に昇進して 今 ジョージア大学にいる。ここ数年は リーディング大学院の講義に来てくれているので 彼の話聴いた大学院生も多いと思う (彼の講義の全米ランキングは一時4位だった)。個人的なつながりだったのが 少しずつだが 広がっていることを とても嬉しく思う。

今回は 私の研究室の OB の佐賀先生が 彼の科研費で招へいしてくれ、昨日 (8日)、一緒に 食事をした。会食には、佐賀先生の教え子も参加。彼女はジョージア大学に短期でも留学してみたいという。時の流れを感じる。

今の立場で、日中は なかなか時間がとれないが 土曜も 夕食を一緒にすることにした。

3月10日 泰日工業大学 (タイ) から元留学生が来校

私の研究室で、博士号を取得した トンチャイ先生。千葉工業大学に 一ヶ月交換教員として 来日しているところを 時間をとって 府大まで足を延ばしてくれた。昼食は 真嶋先生らとカレー屋に行ったが、彼はやはり”4辛”。店員は「本当に大丈夫ですか」と。もちろん、問題なし。我が家に一泊してもらう。



同大学からは 毎年インターンシップ学生を受け入れ、地元企業での就労経験の機会を提供している。今年も 昨年来日した学生の一人がインターンシップ先の企業に勤めることになり、さらに 4月から 新たに 4名の学生が来る。

また、別の学生は、工学研究科の大学院の試験に合格し、佐賀先生の指導の下で修士号取得を目指すという。思い出してみると 2010年からの交流だ。ステップを踏んで、失敗もしながら 交流を深めるのが大切だ。

今週は、ノルウェー、デンマーク、インドネシア、米国、タイと海外からの来客が多かった。



3月11日 私たちは、3月11日を忘れない。

当日は、経営工学会関西支部の卒論発表会で甲南大学に行っていた。一人の学生が優秀学生発表賞を頂いた日だ。終わって電車に乗っていると号外を見ている人が多数いた。何事が起ったのだろう。帰宅してテレビをつけると悪夢のような映像が流れていた。そして流れ続けた。自然の力の強さと人の力の弱さを思い知らされた日だ。忘れることはない。



3月12日 アセアンウィークアンコール写真展

昨年展示して好評だったアセアンの写真を3月9日(木)～3月22日(水)(ただし土日祝は休み)に図書館で展示するという。なぜ、春休みにするのだろうか、公開講座もないし、近隣の方にこの情報は届くのか。展示の結果何かいいことがあるのだろうか。



いくつかの疑問があったが、近くを通ったので立ち寄ってみた。なかなか素敵な写真ばかりで見てよかったと思う。そして、アセアン諸国にゆっくり旅行してみたいとも思った。見れるのは19時(22日は13時)まで。



近くを通った方は騙されたと思ってしてみるといいと思う。アセアン諸国の匂いを感じられるかも。

3月13日 学位記授与式に向けて

一番だけでいいから覚えてみませんか。覚えておくと、いつでも大阪府立大学の匂いを思い出せるかも。

1. 朝暁(あさひ)に光る 海原の

風さわやかに吹きなびく

河内野原(ぬばら)にそびえ立つ

我が学舎(まなびや)のその名こそ

大阪府立 いざいざいざ 栄えあれ 我等の大学

ちなみに、二番以下は、

2. 真昼の陵の常盤木に 百舌鳥たからかに鳴き渡る

古き歴史の跡にして 我が学園(まなびや)のその名こそ

大阪府立 いざいざいざ 誉あれ 我等の大学

3. 夕陽に映える葛城の 山の彼方の雲あかく

希望は遠く大いなる 我が学苑(まなびや)のその名こそ

大阪府立 いざいざいざ 力あれ 我等の大学

4. 星霜(としつき)移り変れども 永遠に変わらぬ探究の

真理にひとみかがやかす 我が学窓(まなびや)のその名こそ

大阪府立 いざいざいざ 奮い立て 我等の大学



### 3月14日 論文博士に学位記授与

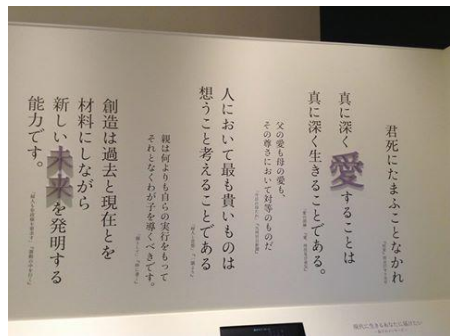
博士号については、課程博士と論文博士がある。課程博士は入学して指導教員の元で研究を行い、それをまとめて審査を受ける。一方、論文博士は、行っていた研究を論文としてまとめて、大学に提出し、審査を受ける。最近では、課程博士が中心だが、以前は、論文博士が多かった。私も民間で行っていた研究を早朝・深夜・休日にまとめて論文博士を頂いた。

本日、お一人だったが論文博士を申請されていた方に学位記を授与した。思い立ってから5年以上の月日を経ているという。ご苦労されただろうが、報いられたと感じる一瞬ではなかろうか。指導教員にとっても嬉しい日のはずだ。多くの博士を出す大学でありたい。高度研究型大学：世界に翔く地域の信頼拠点として。



### 3月15日・さかい利晶の杜そして千利休と与謝野晶子

わびとかさびを学ぶには千利休を調べるといい。情熱的な愛の詩を学ぶには与謝野晶子を読むといい。中百舌鳥キャンパスのある堺にはこういうものがある。海外の人を連れて行って説明できるようになりたい。そして、学生さんにはなってほしい。世界に翔く地域の信頼拠点にいるものとして。



### 3月16日 ボランティア・市民活動センターキックオフイベント「社会貢献都市“堺”を目指して」

別の行事（「未来の博士」育成ラボ「5周年記念講演・平成28年度修了式」）と重なっていますが、後半、少し顔をだしてみようと思っています。

開催日：18日（土）13時～16時

開催場所：中百舌鳥キャンパス

開催場所詳細：B3棟 117教室

大阪府立大学V-stationは、「ボランティア・市民活動センター」として新たなスタートを切りました。大学と地域社会のあらたな関係づくりを進めます。現在、地域でのつながりの弱体化や社会的格差の広がりが指摘されています。市民、行政、各種団体、企業がこの状況乗り越えて、よりよい社会を目指して協働することが眼前の課題となっています。こうした取り組みを志向するのが「社会貢献都市」です。今回、社会貢献都市を目指すキックオフイベントとして、岡山NPOセンターから石原達也氏をお招きして講演をいただく



大阪府立大学ボランティア・市民活動センター **V-station**

キックオフイベント「社会貢献都市“堺”を目指して」

日時：平成29年3月18日（土）13:00～16:00（受付：12:30～）  
場所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス B3棟117教室

大阪府立大学V-stationは、「ボランティア・市民活動センター」として新たなスタートを切りました。大学と地域社会のあらたな関係づくりを進めます。現在、地域でのつながりの弱体化や社会的格差の広がりが指摘されています。市民、行政、各種団体、企業がこの状況乗り越えて、よりよい社会を目指して協働することが眼前の課題となっています。こうした取り組みを志向するのが「社会貢献都市」です。今回、社会貢献都市を目指すキックオフイベントとして、岡山NPOセンターから石原達也氏をお招きして講演をいただくと同時に、堺市内の地域活動、市民活動、学生の活動をもとにしたパネルディスカッションを行います。

- 基調講演  
「まちと大学との距離感の縮め方」  
(講師：岡山NPOセンター 石原達也氏)
- パネルディスカッション  
「堺市でのまちと大学との距離感の縮め方について」  
① 堺市の地域・住民の活動（堺市社協）  
② 堺市のNPO・市民活動（SEIN）  
③ 学生ボランティア活動（大阪府立大学）

と同時に、堺市内の地域活動、市民活動、学生の活動をもとにしたディスカッションを行います。

【プログラム】 基調講演「まちと大学との距離感の縮め方」

講師：岡山 NPO センター 石原 達也氏

パネルディスカッション「堺市でのまちと大学との距離感の縮め方について」

(1) 堺市の地域・住民の活動（堺市社会福祉協議会）

(2) 堺市の NPO・市民活動（NPO 法人 SEIN）

(3) 学生ボランティア活動（大阪府立大学）

【主催】大阪府立大学ボランティア・市民活動センター V - station

【共催】社会福祉法人堺市社会福祉協議会、NPO 法人 SEIN

【協力】堺市（堺市産学公連携「大学における市民活動促進業務」）、大阪府立大学コミュニティデザイン研究所

### 3月17日 新日鐵住金八幡製鉄所を見学

九工大に出張する機会があり、その会議の前に製鉄所（私の先輩は二代前の所長）を見学させていただいた。高炉、転炉、熱延、アルミメッキの作業工程を写真のようないでたちで。大学院生時代に君津製鉄所の見学をさせてもらったり、最近もフランスやカンボジアの留学生と和歌山製鉄所を見学させてもらったことがある（今後もお世話になるだろう）が、やはり実際見てみると「製鉄所ってすごいなあ」と思う。ともかく広い。中は撮影禁止だったので、案内いただいた谷副所長と入り口で記念撮影。

人事の人からもいろいろなお話をお伺いした。新日鉄と住金が統合してからだけでも府大から 11 名就職している。それぞれ活躍しているようだ。



### 3月18日 Go or Loss

昨日（17日）は高専の卒業・修了式。理事長なので来賓として出席した。その後、高専の若い（？）先生方と会議室で懇談。高専の様子をいろいろお話しているうちに、ふと以前聞いたトヨタの話思い出した。「聞いているだけでは実情はわからない。現地現物という発想が大切だ。以前は、行って見てこいということで Go and see だったが、行かないと損するよ Go or loss」。こんな話だった。人間の記憶（思い出）ってどんなメカニズムになっているのだろう。思い出した以上、動くべしと、会議室を出て、先生方の居室を（飛び込みで）見せてもらった。

大学と同じようなところもあるし、違うところもある。建屋が古いのは事実で申し訳ないが、もう少し片付けて頂いてもいいような気もする。掃除機が3つある部屋もあれば一つもなく不便を感じているという部屋もあった。Social Norm（社会的規範）といって「まわりが片付けていればそうするが、そうでないと・・・」という側面もあるのかもしれない。昼光色の蛍光灯と白色の蛍

光灯が混在している部屋もあった。どちらもかなり古い。プロジェクター設置の要望も聞いた。いろいろ感じるどころがあった。

その後、なかもずで IRIS（理系女子大学院生チーム）の成果報告会。申し訳ないことに閉会間際にしか行けなかった。挨拶の時間を頂いたので、早速「Go or loss」という話を紹介した。もし、彼女たちが何かの機会にこの話を思い出して動いてくれればうれしいな！高専に行っていなければこの話をする事は絶対になかった。

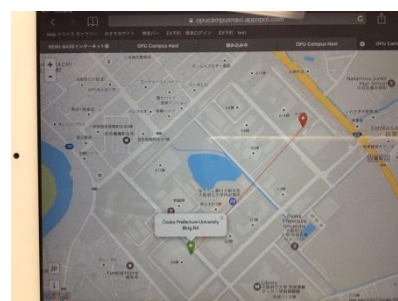
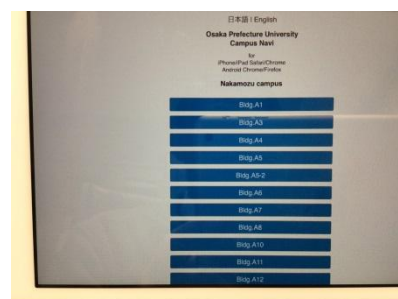
### 3月19日 GPS機能付きスマホ&タブレット端末でキャンパス内会場誘導

学内で来訪者から「A〇〇棟に行きたいのですがどこですか」と聞かれたとき即答できないことはありませんか？また、海外からの来客に駅から研究室までの誘導に困ることはありませんか？

キャンパス施設の案内標識のグローバル化が遅れているので、議論していたところ、「何も標識を英語対応にしなくてもスマホで誘導するほうが面白いし親切なのではないか」という議論になった。

ちょうど現代システム科学の太田教授がキャンパスナビというアプリを開発されオープンキャンパスなどで試行されていたので、グローバル化推進室に紹介していたところ、そのサービス（無料）ができたとの連絡を受けた。日本語と英語で利用できる。

学会、研究会、公開講座などの来訪者に対しての会場案内に活用してほしい。はじめてキャンパスに見える方、新入生などには大変便利なのではなかろうか？最寄り駅（中百舌鳥駅あるいは白鷺駅）に到着してから大学そして建屋の方向を立ち止まって確認するときを使うと便利だ。くれぐれも自転車の運転中や歩きながらの操作はしないこと！！



### 3月20日 匂い

先日、「何かわからないけど、匂う（動詞）」ということについて考えていたところ、お二人の先生から今まで知らなかったことを教えて頂いたので、紹介したい。

(1) 一つは、「におい」という発音に対して、「匂い」と「臭い」があって、前者は肯定的にとらえられ、後者は否定的（例えば、官僚臭いとか犯罪の臭いがする）にとらえられがちだが、「人間臭さ」とか「臭い」にも肯定的に評価されることもある。確かにそうだ。

(2) 古語での「にほひ」は色彩に対して使われている。動詞「にほふ」は美しさが映える、美しさに輝いている、美しく咲く、といった意味から、嗅覚に転義していったそうだ。

(3) さらに名詞「にほひ」には魅力とか気品という意味もある。わからぬでもない。

コンピュータ関連では、人工言語の勉強が中心だが、自然に言語そのものにも興味が出てくる。-----にほひ 【匂ひ】(学研古語辞典) 名詞

① (美しい) 色あい。色つや。出典：枕草子 木の花は

「花びらの端に、をかしきにほひこそ、心もとなうつきためれ」

【訳】（梨（なし）の花は）花びらの端に、美しい色つやが、ほのかについているように見える。

②（輝くような）美しさ。つややかな美しさ。出典：源氏物語 桐壺

「この御にほひには並びたまふべくもあらざりければ」

【訳】この（若宮の）つややかなお美しさには匹敵なすることもできそうになかったのです。

③魅力。気品。出典：紫式部日記 消息文

「その方の才（ざえ）ある人、はかないことばのほひも見え侍（はべ）るめり」

【訳】その方面（＝文章）の才能のある人で、ちょっとした言葉にも魅力が見えるようです。

④（よい）香り。におい。出典：徒然草 三二

「わざとならぬにほひ、しめやかにうちかをりて」

【訳】わざわざ焚（た）いたとも思われぬ（香の）かおりが、もの静かに薫って。

⑤栄華。威光。出典：源氏物語 椎本

「官位（つかさくらゐ）、世の中のにほひも、何とも覚えぬむ」

【訳】官位や世間での栄華も、何とも思われなくて。

⑥（句に漂う）気分。余情。出典：三冊子 俳論

「言外に侘（わ）びたるにほひ、ほのかに聞き得て」

【訳】（前句の）言外に表れた閑寂の気分を、ほのかに聞き取って。

3月21日 新しい発想法や行動法に気づいたり、逆に 気づかせたりすること

会議や打ち合わせや会食には、楽しいものもあれば、疲れるだけのものもある。楽しいのはここで何かの気づきがあり、自分の発想法や行動法を変える機会になるからではないだろうか。あるいは、別の誰かの発想法や行動法に ポジティブに影響を与える と思えるからではないだろうか。

いや、会議とかの定点ではなく、楽しい人（の集まり）というのは、ある一定期間、付き合っていて、その人の発想法や行動法に（ポジティブな方向に）気づいたり、逆にその人に気づかせたりできる「場」ではないかと思う。私の米国人の友人は、**influence** を派生させた用語 **Influencer** と **influencee** という言葉を使って、人の属性を語っている。私は この言葉が好きだ。

今 思えば、48歳で 民間から大学に転職したときに、いろいろな理由があったが、前の職場（という場）には、自分にとっての **influencer** も **influencee** もいなくなって（楽しくなくなり）、それを今の職場（学びの場）に求めたのかもしれない。

月末には府大という学びの場から卒業する学生だけでなく、別の職場に移られる教職員もいる。きっと新たな **influencer** や **influencee** を求められるのだろう。何となくその方々の気持ちがわかる。今、自分の周りには多くの、**influencer** と **influencee** がいるような気がする。誰にとってもそういう「場」だと言われるようにしたい。そうなれば、誰もが楽しい日を過ごせるのではないかと思う。

### 3月22日 「未来の博士」育成ラボ

JSTの次世代科学者育成プログラムの支援を受けた中学生向けの公開講座の開講5周年記念講演会と修了式が18日(土)にあった。私も30分ほど、「システム科学への招待」と題して話をした。

中学生への話は(たぶん)はじめてなので、なかなか要領をえなかったかもしれない。簡単な新聞売り子の話やスループット(ボトルネック)の話をしたが、どうだっただろう。このプログラムの卒業生(現在高校生)や保護者の方、日ごろ指導している先生方、面倒を見ていく職員の方、多数の参加の元、修了証をお渡しした。来年度の活動は4月15日(土)からスタートする。

府立大学では、若年層から高齢層まで、そして教養教育から専門教育まで幅広く地域貢献を目指している。今、その全体像を示せるようなマップを作成している。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。



### 3月23日 手話サークル

以前から、学位記授与式・入学式で手話サークル亜飛夢(アトム)のメンバーに通訳をお願いしていた。一度話を聴きたいと思っていたところ、移転したばかりの学長室に来てくれた。

田中君は今度4回生で学位記授与式、久保田さんは今度3回生で入学式に担当してくれるという。自分で聞くのもおかしいけど、「私の式辞は訳しにくい文章ではありませんか」と聞いたところ、「ええ、そうですけど、大丈夫です」との心強い回答。(お世話になります)。

「何語ぐらい知っているの」と聞いたら、なかなか回答が難しそうだったので、「我々日常語は2万語ぐらい知っているはずだけど、一日1語、一年350語、三年なら1000語ぐらいではないの」と振ってみた。組み合わせでボキャブラリはどんどんえるようだ。また、学祭のときに一気に語が増えるらしい。

最後に「大阪府立大学」の手話を教えてもらって記念撮影。今回の学位記授与式、入学式では式辞の英文を配布予定。「多様」「融合」「国際」を大切な視点としていることを示していきたい。



### 3月24日 ラオス大学からの来客 (マネジメント学類生必読)

何か、少し工夫を必要とする仕事をしようとするサクセスストーリーを事前に策定し、それに沿って行動を行い、評価結果をもとに、ストーリーを逐次修正していくのが大切だと思う。

私の思うアジア諸国との国際交流の活性化は次だ。個々の先生方交流が第一ステップとしたら、次にさくらサイエンスのような支援を受けて、その先生の学生を短期で府大に受け入れる(10





名程度)。そして学生間同士で交流ができれば、つばさ基金（大学に対する寄付金）を使って、その大学に府大生を派遣する（10名程度）。その後、ダブルデグリープログラムにして相互に一年程度相手校に滞在すれば両大学から学位を取得できるようにする（数名）。ダブルデグリーが学士や修士の場合は、その次のステップとして府大の正規の博士前期課程・後期課程に入学してもらう。で、日本に就職あるいは帰国して府大とのパイプ役・・・。取らぬ狸の何とかがかもしれないけど、ストーリーを関係者に示して共有することが大切だ。

22日、ラオス国立大学のプーペット先生が来校され、このような話をしたところ、大いに賛同いただいた。同校には府大で博士を数年前に取得された講師の先生がおられて、先月、さくらサイエンスで同行の学生を短期で受け入れている。次は府大が派遣する番だ。プーペット先生に聞くと、「マネジメント学類」の学生を希望とのこと。杉村マネジメント次期学類長も近藤経済学研究科長も一緒にこの話をしたので絶対に進めることができると思う。

### 3月25日 学位記授与式

卒業・修了 おめでとうございます。いろいろな方にメッセージが届くように、今回は 従来からお願いしていた手話通訳をお願いした他、新たに英文での式辞も配布しました。日本語で表現できていることでも、英語では うまく 表現できたかどうかわかりません（近く別途アップする予定）

ビデオは 学生歌斉唱の様子です。少しでも 多くの関係者が覚えて、首都大戦はじめ 応援団と一緒に歌ってほしいと思っています。（在学生への卒業・修了までの宿題です）

学位記を お渡しするとき、顔を知っている学生さんには つい思い出話を かけたくなります。名前だけ知っている方もおられます。「知っているよ」と 言いたくなりますが、そこは 控えています。白鷺賞や副専攻を含めて 三回も 登壇された方もおられました。最近卒業される方は、名前の読みが 難しい方がおおいので、付箋をつけて 読んでいます。そのため、間違えることはありませんが、目障りだったかもしれません。

式辞は すぐ大学のホームページに アップしています。当日は 抑揚をつけて、ときに繰り返す話したりするのですが、文字だけになると「もう少し名文ができないか」と反省してしまいます。

なかもずでの授与式のあとには、なんばパークスにある社会人大学院の修了式にも参加しました。

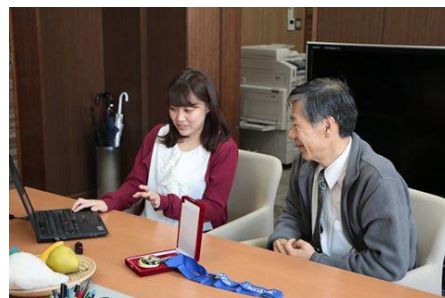
### 3月26日（祝）サイエンス・インカレで文部科学大臣賞受賞

工学域の藤野紗耶さんが、3月4日・5日に 筑波大学で開催された サイエンス・インカレで文部科学大臣賞を受賞し、22日に その報告に 来てくれた。（素晴らしい、日本一のすごい賞です）

発表のタイトルは「人工知能と私の感性が創り出す夢のデジタル絵本～阪和線 103系への想いを形に～」。

3回生の後期からはじめた研究で、阪和線を走る古い電車が大好きで、“感性”という 数値化できないものを 人工知能を用いて 絵本に入れ込んだという。

すごく 楽しそうに 話してくれるので、聞いているだけで 夢を追い求めているのを感じる。先輩の研究にも 刺激を受けたという。夢中になって プログラミングし、気に入らないことに こだ

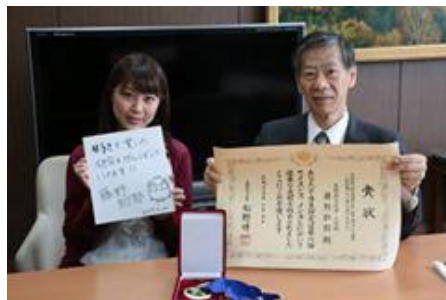


わり、好きなことを 追い求めたのだろう。間違いなく、審査員の心も つかんだと思う。

「色紙を描いて」と頼んだら すらすらと 書いてくれた。これも 素晴らしい。頭の中が よく整理されているのだろう。

私は サイエンス・インカレがあることを 知らなかったが、他大学の方との交流ができる 素晴らしい場ということだ。後に続いてくれる府大生が出ればいいなあ と 願っている。

ちなみに 賞の発表を担当した司会の方は、本学が学位記授与式や入学式で司会をお願いしている方だった。前日から彼女がファイナリストになっていることを知り、発表の時には 喜んで 発表のアナウンスをしてくださっていたという。



### 3月27日 堺の海外交流の地図

先日利晶の杜を訪問したときの地図。北海道が小さく、朝鮮半島が大きい。島々が大きい。当時の海外交流という視点からはこういう地図になったのだろう。地図にはいろいろあって面白い。地図を描くことの大切を最近よく考えている。入学式の式辞でも触れようと練っている。



### 3月28日 大学機関別認証評価・選択評価で高い評価

自慢したいことがある。府大を誇りに思いたいことがある。学校教育法により、大学では、教育研究等の総合的な状況について、おおよそ7年ごとに認証評価機関による評価を受けることが義務づけられている。評価は、書類審査だけでなく、訪問調査があり、教職員だけでなく、在学生や卒業生に対するヒヤリングまで行われる。



平成28年度に、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による評価を受審したところ、特に「研究」と「地域貢献」で「目的の達成状況が極めて良好である」（4段階評価の最上位）という高い評価を得た。このように複数の事項で最上位の評価を受けた大学は、28年度は本学だけであるし、以前も極めて少ないはずだ。

受査の対応にあたった教職員にも感謝するが、日ごとの教育・研究・地域貢献がプロである委員方に評価されたのでとても嬉しい。

### 3月29日 学長顕彰

毎年、白鷺祭の時と年度末に学長顕彰を行っている。年度末は、特に卒業・修了して、大学から翔く学生を対象とし



ている。21日に、団体3組、個人53名、感謝状1組に お渡しした。学術研究だけでなく、課外活動もある。課外活動には スポーツもあれば、外国語に関するものもある。大学の名誉を 高めてくれて、とても とても 嬉しく 思う。気づいていないけど、もっと顕彰すべき学生がいるのではないかと思う。先生方だけでなく、職員からも推薦してもらおうのほうがいいかもしれない。

指導している先生が 同席してくれると 嬉しい。日ごろ怖そうな先生もこの時は笑顔だ。先生方の指導に感謝したい。順番に司会者が名前を呼んで全員に手渡しするが、返事が 小さいことが あったので、(うるさいやつだなあと 思われるだろうけど、笑いながら) やりなおしてもらった。言った方がいいと思ったことはタイミングを逃さず言うようにしたい。

今回は ご家族の方にも 声をかけるように 該当学生に伝えていたところ、数名の方の参加があった。もっと ご家族の方にも 来てほしいと思っている。ご家族の方に 来ていただくには、学位記授与式の日と一緒にするのがいいかと、学生課に検討を依頼したが、当日のスケジュールからみて難しそうだ。

校旗と一緒に記念撮影しているときには、割り込んで、私も 入れてもらったりした。facebook などにアップしてくれた学生もいる。一方、記念撮影の時に さっと 私の横に来てくれるのは、やはりリーディング大学院生の彼だった。

### 3月30日 六研スタイル(6)：自己紹介にも工夫の余地

研究室をもっていたころは、六番目の研究室ということで、ロッケンと呼ばれていた。研究室に配属があると、自己紹介の時に好きな四文字熟語を二つ書いてもらった。皆、緊張しながら、そして「なんで？」という顔つきで書き出す。書き終わったら、なぜその二つを書いたのかを説明してもらった。

全員が説明した後、「一つ目が人生観、二つ目が恋愛観をあらわすそうだよ」と伝えた。そこで驚きがでて、お互いのを見て、笑いがでる。「弱肉強食」「一発逆転」「七転八倒」「一石二鳥」「……」などあって面白い。名前だけだと覚えにくいのが、弱肉強食の〇〇君とか一石二鳥の〇〇さんという、簡単に覚えることができる。そして、卒業・修了するときに、また、思い出しにそれを言う。ちょっとしたことだが、単純な自己紹介より、親密度があがったような記憶がある。

残念ながら遠い昔の話になりつつある。

### 3月31日 美術部有志が作成したフリーペーパー

在学生を支援してくれている後援会の事業にチャレンジくんというのがあって、2016年度は9件が採択になっている。この中の美術部有志が提案した「堺町歩きフリーペーパー」ができたというので、頂いた(かつあげしたのではない)。新入生に配布して、堺のことももっと知ってもらい、街に親しんでもらおうという企画だ。



いろいろな学生がいろいろな活動をしている。とてもすべて取り上げられないが、今回どれも素敵な図柄だったので、思わず、ここで紹介した。もし、ここで取り上げることが希望するイベントがあれば遠慮なく教えてほしい。

4月1日 フランス大使館に招待されて大阪港に入港した豪華客船を見学

天保山の第三ふ頭は、海外の豪華客船が停泊することで有名だ。今回、フランス大使館の儀典課から、「カクテルパーティに招待する」というレターを頂いたので（のこのこと）出かけた。

長年、フランスの大学と学生の交換をしたりしていたことを評価してくれたのだろうか。京都にある総領事には、昨年2回お会いしていて、さらに5月11日に公開講座で講演していただくことになっていて、そのようなつながりから招いてくれたのだろうか。

私は父親が外国航路の貨物船の船長をしていたことから「洋」と命名されている。子供のころタンカーの見学に行ったことはあるが、豪華客船ははじめてだった。豪華なレストランに、フィットネスクラブ、プール、映画館、バーなどなかなかのものだ。誰もが楽しめるところではない。操縦室も見学させてもらった。（自動車ではないが）無人化はどこまでできているのだろうか。こんなことを思ってしまう。

船は大きなシステムだ。いろいろな人が関与してこのようなものを造ることができる。人間の力ってすごいなあと改めて思う。

4月2日 六研スタイル（7）

私が研究室をもっていたころは、六番目の研究室ということで、ロッケンと呼ばれていた。

その頃も、いろいろな情報を研究室HPから発信していた。最近、ある場面で「大学の弱点ばかり指摘し、改善を他人任せにする人がいた（ように感じた）」そのことで、「これは困ったことだなあ」と思ったときに、10年以上前だが、当時、学生に対して、発信（紹介）していた格言を思い出した。人間の記憶とか思い出しというのは面白い。

「日経新聞の私の履歴書より、IBMのガスナ会長の談を自分に照らしあわせ、自分の組織の弱点ばかりあげつらい、愚痴をこぼしている指導者のために働きたい・研究したい・勉強したいと思う人はいるだろうか？そんな指導者にはなりたくない。（以下、略）」

逆にみると、IBMといえどもそういう人がいたのだろう。

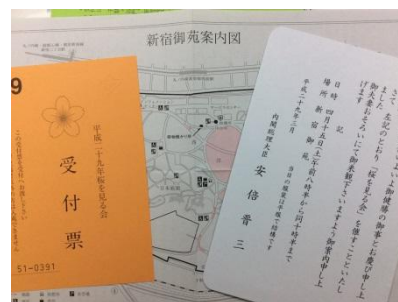
4月3日 「桜を見る会」に招待された

総理大臣から招待状を頂いた。4月15日に新宿御苑で「桜を見る会」を催すということだ。一万人（本学の花まつりの倍だ）が招待されるというから近くに寄ることはできないだろう。しかし、光栄なことなので（カメラを持参して）出席しようと予定している。

昨年（9日）の安倍総理の挨拶は、

「今回で第61回目の桜を見る会となりました。私にとっては5回目の会となりましたわけですが、今まで、桜の花がほとんどなくて、桜の散るのを見る会ではないかというふうに言われたこともございましたが、・・・（後略）・・・」

15日だともっと厳しいだろう。当日の様子は、ここでも報告したい。



#### 4月4日 体育会の幹部が来室

第五十七代 体育会役員が決まったということで、春休み中に日程のついた、千種委員長（陸上部）、湖東副委員長（弓道部）、善本総務局長（弓道部）、川橋渉外局長（硬式テニス）、森川市大戦担当（バレーボール部）が話をしにきてくれた。「泥のついたスニーカーだけはやめてくれ」とお願いしていたが、スーツ姿で礼儀正しく来てくれた。

委員長は先代から声をかけられたらしい、副委員長は委員長が声をかけたという。月に一度、六公立戦の会議があり、そこに顔を出すメンバーが 中心になっているようだ。今年首都大戦はアウェーだが、ぜひ勝ってほしい。（優勝旗を 役員応接室に 飾っているのだが 見せるのを 失念した）

大きな要望から小さな要望までお聞きした。「ポッチャを知っているか」「学生歌を歌えるか」「〇〇先生は 〇〇で 有名だが 知っているか」など聞いた。う〜ん。大学全体の近況・情報を学生に伝えるのは容易ではない。体育会で活動している学生にすら難しいのだから、他の学生にはもっと難しいだろう。改めて そのように 感じた。



#### 4月5日 新法人設立準備室が発足

大阪市立大学との法人統合の準備を行うために、あべのメディックス内に新しい組織を設立した。準備室は当初 18 名でスタートし、新法人の組織、業務体制に関することのほか人事、財務、情報システムなどに関することをまとめていく。

2年後の2019年の法人統合を目指して、大阪府や大阪市とも連携しながら円滑な移行を目指す。メンバーには大変なご苦労をおかけするが、いい法人をつくるということで活発な議論をして進めてほしい。（4日に訪問して挨拶、7日には設立発足会）



#### 4月7日 人工知能研究所 A. Dengel 教授来校 (3月30日)

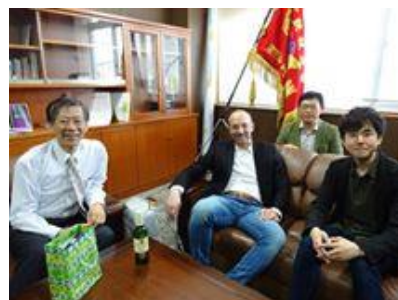
工学研究科の黄瀬先生がずっと以前に留学されていたドイツの人工知能研究所 DFKI。そのデンゲル先生を紹介してもらって、2007年に研究室の学生を長期派遣した（2枚の写真は当時）。当時（直前だったかもしれない）は私の前職の民間会社のブランチも DFKI にあった。

それからすでに 10 年。はやいものだ。その間、府大から何人が DFKI に行って勉強しただろう。片手ではすまないだろう。いま、その研究所の近くのカイザースラウテルン大学の博士課程に在学している石丸君（本学黄瀬研究室出身でスーパークリエータ）がデンゲル先生と一緒に一時帰国し、黄瀬先生と立ち寄ってくれた（30日）。



年度末で短時間しか話ができなかったが、7月には逆に私が訪問したいと思っている。デンゲル先生に「駆け足の出張なので半日だけ」と伝えたところ「フルハーフデー、ぎっしり予定を詰めておく」と言ってもらった。

先日、石丸君はドイツの大展示会 CeBIT でドイツ政府の No.3 にデモしたという。府大の学生には交換留学するだけでなく、海外に翔いて、そこで要人と会ったり、学位を取得するチャンスもある。そして、そのときもヒューマンネットワークは見えるところでも見えないところでもつながっている。



#### 4月8日 新規採用の法人事務職員9名と

ようこそ、公立大学法人大阪府立大学へ。今年度は（教員は別にして）新たに10名の方を採用しました（内2名はつい先日まで本学の学生でした）。社会人だったお一人は一か月先に着任でしたが、このたび、一緒に記念撮影。今年度は3名が高専配属です。



今年の大きなテーマの一つが大学と高専の連携強化。7日に高専の入学式があり、参列しましたが、3名の方は（着任すぐにもかかわらず）昔からいたかのように動いていて頼もしかったです。

当日は、高専で新たに採用した3名の先生、昇任された6名の先生、昇任された1名の事務職員、府から転入された1名の事務職員を加え、自己紹介をまじえ、懇談しました。

今、法人の中に一つの大学と一つの高専があることをよく伝えるとともに教職協働を進めいく所存です。

#### 4月9日 先端ゲノミクス研究所 発表会（31日）

次世代シーケンサーの有用性を学内外に発信し、利用者数の大幅な増加を目指して、研究会が開催された。学内の様々な部局が協力し合って、機器を共同利用しており、その運用状況、利用方法などが説明された。既に18名が利用しているという。

学外から大阪工業大学、日立造船、大阪府大高専からもポスター発表があり、合計26件の発表に対して、活発な意見交換がなされた。

予算が厳しくなっていく中で高額機器の共同利用……。次世代シーケンサーでの「チャレンジ」が全学の機器共同利用推進の強力なモデルケースになることを願っている。

#### 4月10日 ウィスコンシン大学ミルウォーキー校と協定更新（29日）

工学研究科 機械工学専攻が中心となって、学生派遣を行い、ダブルデグリー取得の実績もある同大学の Marija Gajdardziska 先生が来校。Dean of the Graduate School であり大学院の全領域を代表されている。

来日は三度目だが、これまでは会議出席だけで日本の大学訪問は初めてとのこと。「さくらには一週間早かった」とお伝えした





ところ非常に残念がられていた。ビールで有名な街からみえたので、そのことにも挨拶で触れられた。若いころ、辰巳砂先生が米国でポストクされていたときに同じ大学におられたということで small world を感じた。

私からは、府大から 3 名派遣の実績があるのに、ミルウォーキーから学生が来ていないので、そのことも言及した。授業料の相互免除など、米国の大学との交流ではできていないので、交渉・工夫・改善の余地があるように思う。そのことを思いながら、4 月末、ジョージア大学 (19 日)、スタンフォード大学 (20 日)、カリフォルニア大学バークレー校 (21 日)、ニューメキシコ大学 (24 日) を駆け足で訪問してくる予定だ。



#### 4 月 11 日 退職の辞令 (Greater OPU へのお願い)



3 月 31 日 ご定年で退職される教員 20 名、職員 8 名に辞令をお渡しした。「健康で 定めのある年月を勤め上げられた」ということで対象の方はもとよりご家族の皆様にも心よりお喜びを申し上げた (以前は、退職される方に「おめでとうございます」というのは抵抗感というか違和感を持っていたが、最近はいかに素晴らしいことかがわかるようになってきた。

地域にある大学は、大学単独で存在するのではなく、地域エコシステムの一つとして住民、他の大学、企業、自治体などとミッションを分担しあうものだ。引き続き非常勤教職員として お願いする方もおられる。退職される方々にも Greater OPU の一員として今後も大学との関与、ご支援をお願いしたい。世界に翔く地域の信頼拠点を目指して。

#### 4 月 12 日 リエンジニアリング (業務改革) とリストラ (縮小再編) は違う

25 年ぐらい前に、コンピュータを用いて業務改革を行うための視点を学ぶために M I T のマイケル・ハマという教授の書いた本を夢中で読んだ。ずいぶん前のことなので記憶も定かではないし、自分勝手に思い込んでいるかもしれないが、

なぜ、その業務がいるのか (必要なのか)

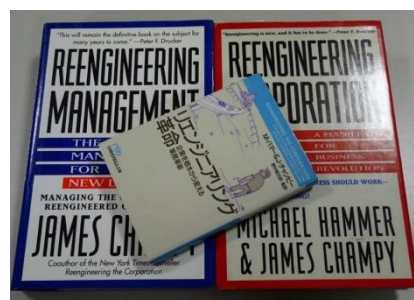
会議など組織の内部調整のものであれば収支改善はない

外部との交渉ごとに時間を費やし収支改善を考えろ

なぜ、そのやり方でやっているのか (引き継いだからではないか)

特に IT を使うと変えられるはずだし、そもそもの目的を考えると

不適切なやりかたである可能性も高い



他にも分業の弊害などいろいろ書いてあって、業務改革とリストラは違うということを学んだ。そしてそれから 10 年間、同僚とともに、業務改革を支援するための IT システムの研究開発を行っていた。

100 円のものを買うのに 1000 円のコストをかけていないか

1000 万円の収入を見込めるのに 950 万円のコストカットで機会損失していないか

他にも読みたい本や読み直したい本はいっぱいあるし、大学職員にも読んでもらって一緒に議論してほしいと思う本もいっぱいある。

4 月 13 日 大阪市大の荒川哲男学長を「花（さくら）まつり」にご招待

4 月 8 日 曇天の中、荒川先生が なかもずキャンパスに来てくださった。これまで市大が 5 月に開催されるポート祭に招待されてきたので、何かご招待する機会がないかと学内で相談していて実現したものだ。

「喜んでいただけたかな」と思っていたところ、市大の HP に記事を掲載（写真も満載）されたという連絡を頂いた。暖かいメッセージを頂いたことを嬉しく思う。



4 月 14 日 学位指導に関する顕彰

学位には、学士、修士、博士とあるが、博士を育成するのは大学教員にとってとても名誉なことであるとともに責任も負担も大変だ。ある意味、自分が博士号を取得するよりも大変かもしれない。

そのような背景もあり、本学では、以前から、多数学位を指導した方には顕彰することになっている。



4 月 15 日 神戸大学 国際コミュニケーション・センターのブリュノ特認教授と面談

少し前の話になるが、5 日、今年度から 教育研究会議の外部委員をお願いしているサファ・ローランさん(写真左)の紹介で、ブリュノ先生とお会いした。先生は フランス語を学ぶための スマホのアプリケーションを開発されており、本学のパンジェ先生(写真右)と お話を伺った。販売方法など これから 工夫されるそう。いろいろな方と 連携して 学生の海外派遣を増やすようにしたい。



このようなツールが 早く使えるようになって 本学でも フランス語を勉強し ヴァルドワーズ 県の協定校に 留学する学生が 増えればと思う。



4月16日 案内板に 英語表記もつきました。

以前、GPS 機能付きスマホ&タブレット端末で 英語版もある キャンパス内会場誘導という記事を書いたが、キャンパスの案内板にも 英語表記がついた（逆に言うと今までは日本語表記しかなかった）。

留学生向けにも 学生センターの掲示は 英語併記が 増えてきた。しかし、教職員向けの文書については まだまだだ。人事関係、経理関係など サービスの基本の文書の英語併記にも 着手しなければならないだろう。世界に翔く地域の信頼拠点になるために（ハードルを低くして）一歩ずつでも。



4月17日 橋って ありがたいもの

「大和川を超えるか超えないかで大きな違い」というような声も 聴くが、日頃、公共交通機関を使っているときに 橋のありがたさは それほど 感じない。ところが その橋が 使えなくなっとう回路に まわらなくて その ありがたさが身にしみる。

18日から 渡米して 最初に ジョージア大学に 行く予定だが、空港からのシャトルバスを 予約しようとしたら、橋の火事で 不通となっているという。最初に 気づいた時には 1時間半 余計にかかると思ったが、現時点では 45分余計というところまで 来ているようだ。

橋、トンネル、う回路……。入学式の 式辞でも 述べたが、目的地に行くには 大切なものだと 改めて思う。

4月18日 公開講座「関西経済論」始まる。

1000人規模の公開講座を 23年も続けているのは他には類をみないのではないだろうか。ギネスものだと思っている。

なかもずキャンパスには日頃 5000人ぐらいがいるので、この講座のあるときには人口が20%増える。そして、キャンパスの平均年齢が 10歳ぐらいあがる。堺市以外の府民の方も公共交通を利用して通学されている。なんともすごい講座だと思う。

一回目は田村堺市副市長による「もず古市古墳群」の世界遺産登録に関する話題を中心に郷土の歴史や文化の話だった。まだ、会場の Uホールには 1300人は入るので、まだ席はあり、二回目からの受講も可能である。

4月19日 久しぶりの米国本土

最近アジア諸国を訪問することが多く、米国には 5年ぐらい来ていない。今回、堺市とパークレー市の交流 50周年の行事があるので、それに合わせてスケジュールを組んだ。初日はアトランタ。コカコーラの本社やCNNの本社がある大都市だ。



96年には、オリンピックも開催している。

目的地のジョージア大学は空港からバスで 2時間近くかかったの、自宅から初日の宿まで 24時間近くかかった。長旅なので良いマイヘッドフォンを持参したところ長く使っていなかったため

か、いざ使おうとしたら、耳カバーがボロボロになっていた。気付いた時によほど残念な顔をしていたのか、機内で隣の米国人が、「カバーだけ 10 ドルぐらいで買えるよ」と教えてくれた。早速アマゾンで発注し、次のホテルに届くように手配した。

サマータイムなので8時過ぎてもまだ明るい。暫くは旅行記になるかもしれないがネット環境を確保して、出来事を紹介していこうと思う。

#### 4月20日 ジョージア大学を訪問

リーディング大学院などでほぼ毎年招聘している A. Tiwana 教授を訪問。ここには経営情報システムのコースがあり、寄附で新しいビルを六棟建てるといので工事現場に入り、教室の工夫などを見学。教授室は府大の半分しかないが、学生の学修環境はいろいろ配慮していることがよくわかった。教室や会議室には寄付者の名前が付いている。

キャンパスには、府大のネコのようにりすが遊びまわっている。アメフトの競技場は甲子園球場並みで、ヘッドコーチの給料は学長より高いそうだ。関係のグッズを多数販売していた。

学長や学部長を教員が匿名で評価するシートや学生がお互いの発表を評価するシートなども見せてもらい、意見交換した。「府大の教員、誰か数ヶ月でも来ないか。ゲストハウスも用意するよ。いつでも招聘状を書くよ」と言ってくれたことが嬉しい。



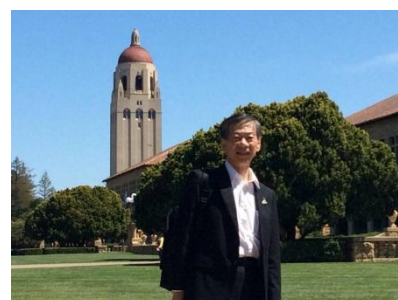
#### 4月21日 バイエリアでの一日

早朝アトランタ7時過ぎのフライトでSFに9時半に到着。シリコンバレークラスでお世話になった Nick USHIO さんに拾ってもらって、まず Google 本社。その後、FLEDGE アントレプレナー育成プログラムで契約した PlugAndPlay 社を訪問し、府大旗がカーネギーメロン大学とスタンフォード大学の旗の間にあるところで撮影。彼らのビジネスを肌で感じる事ができた。

午後スタンフォード大学に行き、20年交流のある PBL ラボを訪問。自分の研究時間を取れなくなってからご無沙汰していたが、面白いデモを多数見学し、交流の再開を約束。

SF のホテルにチェックイン後、卒業生に拾ってもらって、夕刻、堺市とバークレー市の交流 50 周年記念レセプションに参加。野生のシカが出るような山中のログハウスみたいなところで。盛大な会だった。

会はワイン中心だったので、ホテル近くで9時ごろから、卒業生と夕食。いろいろな方に大変お世話になって、バイエリアの匂いを感じた長い一日が終わった。明日も五件アポを入れている。



4月22日・University of California-Berkeley バークレー (アメリカ合衆国・California)・



52年前、府大生が堺市長の親書をバークレー市長に手渡したことにより始まったという両市の交流。手渡した2年後に、協定締結となり、今年が50周年。当時は、行政の交流だけでなく、本学のUCBとの交流も活発だったと聞く。今は、個人レベルは別として、組織レベルでは交流できていない。

なんとかしたいという気持ちで、50周年記念式典に割り込み、大学関係者と面会した。特に緑地環境学関係の学部長、教授に接触した。8月に府大でシンポジウムを開催し、招聘することも約束した。

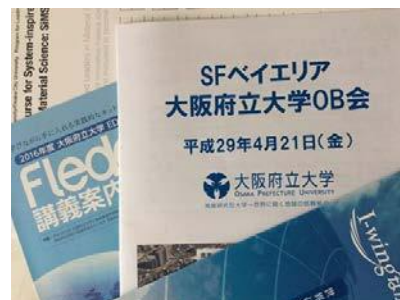


当日、その後、両市長の記念植樹や茶会に同席したのち、府大ベイエリア同窓会に出席。会長と幹事も決まり、継続して開催できそう。今回は第一歩であり、ネットワークを広げたい。彼らは間違いなく府大生を支援して下さい。この二日間も多大なお世話を頂いており、感謝している。

海外に在住するOBとのネットワークづくり。私の大きなテーマだ。世界に翔く研究型大学にするために。

4月23日 会長と幹事を決定

西海岸出張が決まってから、是非行いたかったことが、この地域での Greater OPU 同窓会。柔道部 OB で、私が赴任時に4回生だった公門さんのお世話で実現した。当日、日本出張で欠席だった方もおられたが、「えっ、府大だったのですか？」とお互いに知っていたにも拘らず、同窓と気づいておられなかったこともあった。駐在の方だけでなく、永住を考えておられる方もいる。



きっと府大に関与した方は、他にも多数このエリアにおられるはずだ。教室に雀が入ってきた話、ご子息の教育の話、現地の物価の話、いろいろお聞かせ頂いた。何かの機会にどんな形でもいいので、大学をご支援頂きたい。

4月24日 浪人の研究？

今回の米国出張の最終訪問先のアルバカーキに着いた。リーディング大学院で講義をお願いしている Saybrook 大の Nancy Southern 教授とアントレプレナー教育 Fledge でお世話になっているニューメキシコ大学の Eri Hoshi マネージャーと夕食。話題は多岐に渡ったが、Nancy の学生が日本の浪人について研究しているというのが興味深かった。海外には、Gap Year という考え方があり、浪人とその違いなど議論した。仮面浪人というコンセプトも紹介した。



出会いというのは面白い。動かなければ出会いはない。運、不運もある。色々な出会いの場を作るのも教育の大切なミッションだと思うがどうだろう。府大で頑張ろうと思ってくれた学生に少しでも応えられるような場をと思う。

明日は終日、ニューメキシコ大の方と意見交換できる。ダブルデグリーの可能性についても議論してみる。

4月25日 ニューメキシコ大学訪問 そして帰国の途に技術移転の部署を訪問した他、燃料電池、ナノ科学、スマートグリッドの研究センターを訪問し、今後の交流について議論した。予定をうまく作って頂いており、時間を有効に使えた。昼食は学長代行の先生と、そして、最後はピッチコンテスト。コンテストは地ビールの醸造所で行われ、二階から見下ろすように1分半語るものだった。学長代行、地元議員、顧問弁護士、教員、学生が多数参加していた。投票は、ネットで行われ、2名がイタリアチケットをゲットした。

実現したかった ダブルデグリーについてもポジティブな反応。まずは六ヶ月くらい、学生さんが交換留学してくれればと思う。



4月26日 在学生の保護者のためのオープンキャンパス (5月20日(土))

入学式の時に予告していたが、友好祭にあわせて、保護者のみなさまを対象にイベントを企画した。詳細は次にあるように在学生も協力してくれることを嬉しく思っている。この三人の話は間違いなく刺激的だ。

私は当日の正午前後にある大阪市大との学長対抗ボートレースに出席するため、少し遅参するが、日頃思っていること、感じていることとお話しさせてもらう予定だ。

シンポジウムの後には、キャンパス・ツアーを実施する。初めての試みなので、どの程度の方に参加いただけるか心配ではあるが、少しでも大学を知ってもらいたいと思う。

【第1部】 13時30分～15時 シンポジウム

- (1) ご挨拶 吉田 敦彦 (副学長・学生センター長)
- (2) 「大阪府立大学のキャリア育成支援の取り組み—今、社会で求められる人材像—」 横山 慶一 (キャリアサポート室長)
- (3) 「なぜ府大生はこんなに伸びるのか?—府大の教育の特色—」  
高橋 哲也 (副学長 教育・入試担当)
- (4) 学生プレゼンテーション  
右 大輝 (現代システム科学域 4年生)  
藤野 紗耶 (工学研究科 博士前期課程 1年生)  
長野 将吾 (工学研究科 博士後期課程 1年生)
- (5) 学長からのメッセージ 辻 洋 (学長)

## 【第2部】 15時30分～17時 教職員との懇親会

キャンパス内ツアー（なかもずキャンパスのみ）

（希望者のみ自由参加、当日申込受付、200名程度限定）

### 4月27日 教職協働組織「IR推進室」始動

本日の内容は学内の教職員向けになってしまうが、大学の各種計画や施策の立案を行うために、各種情報を収集し、意思決定に資する情報として分析・編集するとともに、法人の内外に対して情報発信する「IR推進室」に関するものだ。IRとは、Institutional Researchの略だ。この四月に設置したもので、第一回の会議が本日あり、私からは次の5点を願った。

（1）計算機の組織への導入は、事務計算から始まり、「データ」を扱っていた。同じデータでも意思決定に使うために対前期比を見たり、部署別の比較をして意思決定のため「情報」を扱うようになった。さらに、その情報を用いて組織の戦略に使うようになってきている。大学でも、データを集めそれを基に「意思決定」に使えるようにしてほしい。

（2）SWOT分析というのがあり、これは自分の組織の強み、弱み、機会、脅威を見て意思決定するものだ。大学のデータをこの視点で「可視化」してほしい。

（3）IR推進室は、大学の組織ではなく、法人の組織として位置付けているので、投資と回収という「経営の視点」を含んだ情報の提示を願いたい。

（4）大阪市大の「REDCap」というプロジェクトを使うことも考えてほしい。

（5）入学式の式辞で「地図を描こう」とお話ししたが、本学と他大学のポジショニングを行い（ベンチマーキング）、さらにはありたい場所をプロットして、それに近づけることに使える情報を示してほしい。

### 4月28日 芥川賞作家で本学OGの柴崎友香さんによるライブラリートーク



賞をとられてから、毎年のように来ていただいている。しかし、これまで日程があわず、お会いすることができなく、残念だったのだが、今年、とうとうお会いできた。受賞作「春の庭」には昨年に既にサインを頂いていたのだが、今年、それを手に一緒に記念撮影させていただいた。

図書館で約一時間に渡ってトーク。子供時代から大人向けの本を読んでいたこと、学生時代には、あえて文学部ではなく地理学を学べる総合科学部を選ばれたこと、小説は読者に別荘のようなものを与えること、など楽しくお話しいただいた。

先日は、アイオワ大学で全世界の作家と3か月合宿のような会合があったそうだ。すでに、韓国語、台湾語、英語などにはいくつかの本が訳されているそうだ。

今後のますますのご活躍を期待する。また、話を聞いた学生がますます図書館を使ってくれることを期待する。



#### 4月29日 the 50th anniversary of the Berkeley – Sakai sister city organization

堺市とバークレー市は 姉妹都市であるが、そのきっかけは 府大生が堺市長の親書を バークレー市長に 手渡したのが きっかけだ。その 50周年記念があったので、私も（割り込むような形で）レセプション（20日）と 記念植樹（21日）に 参加させていただいた。（スケジュール表に Open to Public とあったのだが、これは 「誰でも 50ドル 払えば 参加できる」ということだった。「へえ～」という印象）



竹山堺市長と Arreguin バークレー市長が 参加される中、レセプションは ログハウス（野生のシカがでてきたりした）のようなアットホームなところで、記念植樹は UC バークレーの広大な植物園の中で あった。レセプションでは、話をする機会を頂いたので、「両市が姉妹都市なのだから、それぞれの市にメインキャンパスをもつ大学同士の交流も活発にしたい」旨述べた。（少し格好のいい写真を撮っていただいたが、実際には 緊張の極みの中、メモを見ながらの たどたどしいものだった）。バークレープレスの記事がいたので、府大生の親書の話をした（が記事にはならなかったようだ=残念）。

8月には、UC バークレーのランドスケープ・デザイン関係の方を 府大にお招きし シンポジウムを開催する予定だ。また、10月13日には バークレー市の方が 堺市に見えて 記念式典を開催するという。

#### 4月30日 来月6日（土）、経済学研究科でゲストスピーカーとして講義

連休の間で 恐縮だが、サテライト教室で「システムの研究・開発・教育に携わって40年」と題して 講義をさせてもらうことになった。MBA 取得を 目指す社会人を 対象としたクラスだ。

学生時代に システムという言葉、その研究・開発の入り口に立たせてもらったこと、民間時代に厳しい上司の指導を仰ぎながら 24年間にわたってニーズとシーズを見ながら 顧客の問題を 情報システムを用いて 解決してきたこと、大学教員に 転職した経緯、教員になってから 現代システム科学域や システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラムの設置に携わってきたときに考えていたこと、大学の運営における システム思考の必要性など、受講生の関心をインタラクティブに確認しながら 話そうと思う。

今年は、難易度は 別にして、同じ流れの話をも 1月に グランフロントの勤務帰りの方向け公開講座「超学校」、3月に「未来の博士」育成ラボで 中学生を 対象に、今月末、高専の新生（年齢は高校一年相当）に、7月にドイツで開催される国際シンポジウムで、あと日程調整ができれば、学域生や 平日昼間の公開講座でも 話をさせてもらう予定だ。

少しでも 参考になること、記憶に残ることを 話すよう準備している。

5月1日 読ン得本々（よんどくほんほん）は OPERA で

新入生に薦める 100 冊の本について、大学の学術情報レポジトリから見るることができる。こういう推薦図書を毎年まとめていることとあわせ、新入生にはレポジトリの存在も知ってほしい。

ここで推薦されている本は総合図書館中百舌鳥に所蔵されている。読書はいろいろな人と会話するうえで不可欠だ。「学生時代には読書する時間がたくさんあった」と振り返るとともに「あったのに」と多くの人が悔いる。

調べたいものが明確に分かっているときには、電子的にサーチすればいいが、明確に分かっていないときには、図書館に行くのが不可欠だ。私は若い時に特許の抄録を手めくりした。電子サーチではない発見があった。それと同じだと思う。



5月2日 TNI students are welcome!!

タイの バンコクにある 泰日工業大学（ビルの写真は 5 年前に撮影）。機械工学や生産工学を学び、日本流の改善、モノづくり、反省などを学んでいる。大学名や学習内容からわかるように 日系企業と結びつきの強い大学だ。

この大学から毎年、府大周辺の企業の支援を受け、インターンシップ生を受け入れている。今年は 四名の学生が来てくれた。週に一度、寝屋川の 高専を 訪問し、そこでも 学習している。府大独自の国際交流モデルだ。

聞いてみると、来日は 全員が 今回 はじめてではなく、家族と観光で来たり、なかには、高校時代に 山梨に留学したという学生もいた。将来、日本で就職したいという 希望もあるそうだ。

逆に、府大からは 同大学で 8 月下旬に 12 日間 勉強するサマー・プログラムや 3 月中旬に 12 日間 勉強するスプリング・プログラムがある。ますます 交流が深まることを 願っている。



5月3日 UCB カリフォルニア大学バークレー校のパノラマ



4月末に渡米した時の写真を連休中紹介しようと思う。最初はUCB。サンフランシスコからBARTと呼ぶ鉄道に乗ると、30分ほどでバークレーダウンタウン駅。そこから大学の中心には15分程度かかるが、その間、ずっと学生街だ。米国の中でも便数が多い鉄道で行ける大学は少ないと思う。学内と学外の垣根などは全くない。



市の人口が11万人。大学には、教職員、学生など入れて4.5万人いるという。全員がバークレー市に住んでいるわけではないだろうが、その比率の高さが際立つ。



山に登ると植物園があったり、著名な研究所が並ぶ。政治的文化的にシグマをはずれたところに位置するはずだ。確かヒッピー文化はここから登場したのではなかったかと思う。

#### 5月4日 Google 本社のパノラマ



中盤とはいえ、ゴールデンウィーク。校務としての来客もなく、イベントもないので、昨日から、先日、渡米した時のパノラマ写真（とあと数枚の普通の写真）を紹介している。



本日は、シリコンバレーにあるGoogle本社。プラグアンドプレイ社のアポの時間まで少し余裕があったので、連れて行ってもらった。観光名所になっているのか、カメラをもった人がうろろうろしていた。青空の下に会社の自転車が並んでいた。気分転換の時にサイクリングをするのか、食事に行くときに使うのか。勤務時間帯だったので社員は外には出ていなかった。



サーチエンジンのレガシーといえば、AltaVista。Googleが登場するまではよく使われていた。20年前にはWebの索引の作り方が学会でよく発表されていて、15年前には講義でHTMLやHTTPとともに解説をしていた。最近の技術についてはフォローしきれていない。情報分野の技術の進歩はとても速い。



5月5日 スタンフォード大学のパンorama写真



シリコン=珪素=>半導体のチップ=>コンピュータそのものであり、この大学のあるシリコンバレーとは、60年代に隠語として使用されはじめ、70年代に普及した。その後、同様のネーミングの追随が続き、シリコン・アレー（ニューヨーク）、シリコン・フォレスト（シアトル）、シリコン・プラトー（インド）、ビット・バレー（渋谷）が知られている。

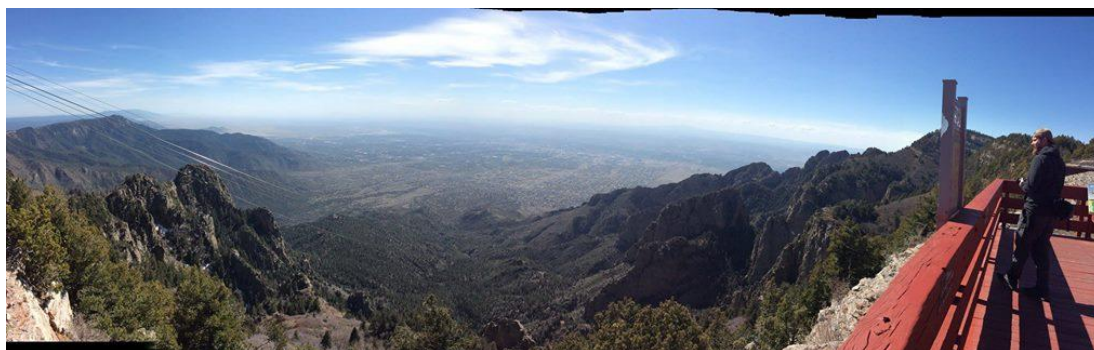
大学は19世紀後半にできたが、当時はどちらかという東部では生き残れなかった（偏屈な）学者が流れてきたと聞いている。ゴールドラッシュ時に金堀りに来た人々を対象とした食料品店の店主が大金持ちになって土地を（絶対に売却をしないという条件で）寄付。工業団地というコンセプトを備えた大学ができたらしい。学内にはパッカードやヒューレットそしてゲーツが寄付した建物が林立する。

大学にはCALTRAINという鉄道と大学の巡回バスを利用して行ける。空港からなら、Super Shuttleという乗り合いが目的地まで運んでくれる。以前、私はそれらを利用してしたが、それを言うと現地の人にはあきれられる。実際、（レンタカーにしろ）車がないと動きがとれないというのが正しい。

95年-01年、スタンフォード日本センターの客員研究員をしていたので、当時の知人がまだ何人かいる。今回、その一人の先生を訪問した。彼女のビルはYAHOOの創始者のジェリーヤンが寄付したものだ。「また、共同研究できたらいいね」という会話をしたが、（今の職務である以上）実現しそうもない。



5月6日 標高3000メートルのサンディアピークのパンorama写真



ニューメキシコ大学のあるアルバカーキに到着したのは日曜日の午後。アルバカーキは標高1500メートルあり、最近では日本の陸上や水泳の代表選手のトレーニング場所になっているそうだ。そういわれると空気が薄いかもしれない。

そこからロープウェーで30分ほど乗ると3000メートルの最高峰まで登れる。そこからは360度地平線だ。近くにはその1500メートルを超える山がないということだろう。

山は岩だらけだが、よく見るとリスや鳥がいる。ガラガラヘビもいるそうだ。この景色は、直近だけでなくものごとを長期的に考える重要性、一方向だけを見るのではなく、360度思考を巡らす重要性を教えてくれる。



5月7日 西部劇に出てくるようなアルバカーキ旧市街

子供のころララミー牧場とかローハイドという西部劇をよく見た。幌馬車で荒野の中を「西へ、西へ」と人が移動するもので、当時、移住者である白人＝善いもの、その進出を拒む原住民＝悪もの、という構図があり、現在では馴染まない内容だが、そういうことはわからなかった。

この旧市街には、北米大陸の原住民の方が商売を許可されていて行っている。サボテンなどもあった。唐辛子がこのあたりの名物で、レストランに行くと「Red or Green?」と聞かれる。そういうときにミックスが欲しければ「Xmas, please」というのが洒落ているそうだ。



5月8日・アルバカーキ（アメリカ合衆国・New Mexico）



#### ニューメキシコ大学の Smart Grid 実験設備

ゴールデンウィークに続けてきた、渡米中のパノラマ写真シリーズも本日が最終。今回は、アントレプレナー育成プログラム **FLEDGE** でお世話になっているニューメキシコ大学。パノラマ写真はメインキャンパスから車で 20 分程度のところにあり、映画のロケ地としても使われている。



ここに NEDO が Smart Grid の実験設備をおき、5 年間にわたって実証実験をしてきたという。太陽光や天然ガスなど多様なエネルギーをコントロールして近くの住宅に配電・送電している。日本から大臣やいろいろな自治体の議員、行政関係者が見学に来ることも多いそうだ。

写真からもわかるように機器の多くは日本語の運用・保守マニュアルになっているようで、日本人が客員で滞在して一緒に共同研究してほしいというニーズがあった。今、ヨーロッパからのインターンシップ学生がいるが、彼は自転車で（メインキャンパスにある）寮から一時間かけてここまで通学しているという。ここは、空気が薄く丘陵地なので、よほどの体力があるのだろう。府大から留学するとなると、通学の問題が大きそうだ。



5月9日 経済学研究科サテライトオフィスで講義

連休の合間にゲストスピーカとして講義をする機会をもった。社会人の方々対象だ。「システムの研究・開発・教育の携わって 40 年」ということで、

システム科学を学んで

データが蓄積されるようになって

Web(インターネット) の登場とともに

情報システム開発は人海戦?

大学教育とシステム

について語った。短い時間であったが、少しでも参考にしてもらえればうれしい。

## 5月10日 大阪工大の梅田キャンパスを見学

本学の大松繁名誉教授は 定年後 大阪工大で ご活躍だ。この四月に本部から 梅田に開学した梅田キャンパスに 移られた。そこで 研究室の見学（写真撮影を含む）をお願いした。

学部長や学科長も含めすべての教員の部屋はガラス張りで、広大な学生の研究スペースから教員部屋の中の様子が見える。逆に言うと、教員からは、自分の机から 少し立ち上がるだけで、自分の研究室の学生だけでなく 学科の学生の様子が 自室から ガラス越しに見える。自然とコミュニケーションが 起こるだろう。

レストランやラーニングコモンズなども「共創」というか、皆で議論して何かを創っていく「場」が設けられている印象。今春の入試では 辞退率が大幅に下がり、合格者の大半が 入学するようになったという。交通の便も よく、教員との距離感も近く、新しい学びの場ができている。(井の中の蛙にならぬように) いいところは見習いたい。府大を 世界に翔く地域の信頼拠点 にしていくために。

## 5月11日 フランスでホームステイした学生からの手紙

昨年度、インターカルチャルスタディーズでホームステイした学生が、フランスに出かける前から、その不安や期待を手紙にしてきたという。そして、滞在中も毎日の経験を手紙にして、最後にはフランス語でも書いた。

その記録を大阪公立大学出版から「本」にしたというので、一冊頂いた。装丁からは航空便のように見えるなかなかユニークな本だ。今年もこのプログラムがある。少しでも多くの学生に参加してほしい。そういうグローバル化に挑戦する学生を支援していきたい。(この本は図書館で見ることができる)



## 5月12日 名誉教授の称号授与の式典

少し古い話になるが、昨年度末、17名の方に名誉教授の称号を授与した。法的・国際的に認められた荣誉称号であり、学校教育法にその根拠規定がある。府立大学の辞令書はとても大きく、私は世界一大きいサイズではないかと思っている。

今後も、ご健康に留意されて、引き続き大学へのご支援を頂けるようお願いした。



## 5月13日 在学生保護者の方々、お待ちしております。

当日は、友好祭と呼ぶ大学祭を開催していろいろなイベントがありますので、大阪府立大学を知っていただく機会になると思います。主に一年次、二年次の保護者を対象としていますが、限定するものではありません。在学生の活躍の様子を垣間見ていただけたと思います。



【プレスリリース】初の取組み／「在学生保護者」を対象としたオープンキャンパスを実施

大阪府立大学は、在学生保護者に対するオープンキャンパスを初めて実施します。入学後の在学生保護者（主に1年次、2年次の保護者を対象）に、大学の教育環境やキャリア支援という観点で本学を知っていただき、在学生の応援団としてより親密な相互関係を構築する一助とすべく、初開催します。当日は、教職員からのアナウンスに加え、ロールモデルとなる成長しつつある3人の学生も登壇します。

日時 2017年5月20日(土) 13時30分～17時

場所 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス



5月13日 米国で六か月在外研究をしてきた太田英輔先生と面談

教員を六か月から一年、海外に派遣するプログラムがある。毎年二人から三人を送っている。実際に海外に住み、アパートを契約したり、水道・電気を契約したり、こういうことを含め経験することが大切だと思う。

昨年後期にオレゴン州のユージンというところにあるオレゴン大学に留学した太田英輔先生にお話を伺った。米国で使えるSIMカードを持参して日本の携帯を使って不動産屋を当たって住むところをみつけたそうだ。通学は徒歩圏で車は不要だったらしい。米国としては珍しい場所だ。

滞在先は、Department of Chemistry & Biochemistry and Materials Science Institute。現地の研究者は遅くまでは残らないが、彼は結構残って実験を頑張ったらしい。実験結果を同大学の先生や学生と連名で論文をまとめつつあるという。

こういう機会を多くの若手教員が活躍してほしい。また経験した人はそのことを周りの教員や教え子に伝えてほしい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

5月14日 今年の渡航予定

先日、渡米したが、今年は次のような予定をしている。ここで知らせておくと「ついでに・・・」とか「ここも・・・」ということがあるかもしれないとも思ってお知らせしておく。

6月末～7月初 ドイツ、フランス、オーストリア

ベルリンで開催される Computer Science, Applied Mathematics and Applications に関する会議で基調講演を招待されたので、その後、ダブルデグリーを活発に行っているフランスのヴァルドワーズのグランゼコール、人工知能で研究者交流を活発に行っているドイツのDFKI、これまでゲストプロフェッサなどで学生の指導を受けているオーストリアのグラーツ工科大を訪問予定。

9月 シルバーウィーク前後 台湾

台北駐大阪弁事処より、招待を受けたので、トップクラスの大学やすでに交流協定を締結している大学を訪問予定。ダブルデグリーをどこかでできればいいと思っており、これからその調整、準備に力を注ぎたい。

12月中旬 カンボジアで国際研究会

府大の先生方中心になって、委員会を構成して、国際貢献を趣旨とした研究会を企画中であり、併設で、SDワークショップやアントレプレナー教育のコンテストができないかと相談している。

5月15日 金槌しかない、何でも釘に見えて、叩こうとする？

先日、社会人大学院で話をし、十八番の天橋立の話（長期的、多面的、根本的に発想することが大切）などをしたところ、面白いレポートを頂いた。それは、「金槌しか持っていない人は、問題解決しようとするときに、ひたすらクギだけを探し、それを思い切りたたこうとすることしかできない。それに対して、いろいろな道具をもっていれば・・・」というようなものだった。



大学での専門教育は、金槌だけということはないが、本学では、少しでも幅広く学んで欲しいと思って、学士課程を再構成し、副専攻などを用意している。実世界の問題は、問題そのものが多様であり、複雑に入り組んでいる。一つの道具で解決できることはほとんどない。一人で解決できることもほとんどない。

府立大学で学ぶ学生の皆さんには、教育カリキュラムの意図をこのメタファから理解して、生涯学び続けることができる人材に育ってほしい。

5月16日 木曜日は木（も）っと府大

今年は5月18日、6月15日、7月20日に開催。その最初の日が近づいてきました。18日の主なプログラムは次です。



#### 【プログラム】

「特別見学！大学の貴重書」（11時～11時30分）

普段閲覧されていない貴重書を特別に見学します。定員 20名（整理券必要）

「施設見学ツアー！放射線施設」（11時～12時）

日本の研究施設で最高強度を誇るガンマ線照射施設や、放射線が目で見える高性能霧箱を専門家が解説しながら紹介します。定員 40名（整理券必要）

「関西経済論」（13時～14時30分）

「我が国の財政の現状について」講師 美並 義人（近畿財務局長）

毎年約1,000人の方が受講される人気講座。府大DAYの日は、この講座を特別に1日だけ受講できます。定員 30名（先着）

「体いきいき教室—キャンパスウォーキング&ボッチャ」（14時30分～15時45分）

〈キャンパスウォーク〉効果的なシューズの履き方から学びましょう。普段の「歩く」を「ウォーキング」に変える方法をお教えします。

〈ボッチャ〉子どもから大人までみんなが楽しめるスポーツです。リオパラリンピックで日本チームが銀メダルを獲得した種目・ボッチャを体験してみましょう。定員 60名（整理券必要）

5月17日 教育研究に関する議論をアドバイス頂く学外委員

大学の教育研究会議は、研究科長、学域長など各部局の代表の先生方が委員になっている最高意思決定機関だ。本学はこの会議に学外の方4名にも委員になっていただき、意見を頂くことにしている（定款に定められている）。



この4月からは、元大阪府教育委員の中尾直史氏（元関西初民間出身校長）、大阪女子大学同窓会斐文会理事長の仁科亮子氏（元大阪府庁）、アルドネット株式会社代表取締役の Safa Laurant 氏（元松下電工）、大阪市立大学学長補佐（前理事・副学長）の宮野道雄氏にお願いしている。

月に一度の会議であるが、会議後にも学長室にて、気づかれたことを幅広く教えていただくようにしている。いろいろな立場を経験された方のご意見は貴重だ。



5月18日 週末、20日、21日は友好祭

56回目の本祭典。「色に染める色に染まる」。多くの方にとって素晴らしい時間になりますように。実行委員の皆様、ありがとう！

本祭典にあわせて、初の取組み「在学生保護者」を対象としたオープンキャンパスも一日目の20日（土）、13時30分より開催します。大学の活気を見ていただきたいと思っています。ぜひ、ご参加ください。

5月19日 キャンパスを紹介するデジタルパンフレット

毎年キャンパスガイドと呼ぶ冊子を作っている。紙媒体だけではなく、デジタルでも参照できるようにしている。

私からのメッセージは、

-----

なりたい 自分を 見つける場に！

受験生の みなさんにとって 目下の目標は、大学に 入ることですね。では入った後、どんな 学生生活を 送りたいか 考えたことは ありますか？

長い人生の なかで 大学生として 過ごす期間は ごく わずかです。しかし その後の 人生を 大きく左右する、重要な時期でもあります。私のターニングポイントも 大学生の時でした。それまでは、大学に入ったら 最低限の勉強だけして、あとは 旅行でもして、将来は 数学の教師になろう…、そんなふうに思っていました。ところが、偶然 出会った ある人の一言が きっかけで…

----- 続き

-----

は、[https://www.osakafu-u.ac.jp/info/president/message\\_fut/](https://www.osakafu-u.ac.jp/info/president/message_fut/)



5月20日 食堂周辺を自転車進入禁止にして三週間

今月から、食堂周辺を自転車進入禁止にしている。連休があったので、実質は10日間程度経過したことになる。「せめて降りるので、その場合は入れるようにしてほしい」という要望もあったが、昼休みなどの混雑時に危険があるので、協力してもらうことにした。

構内が広いので、授業の教室移動に自転車は便利だ。一方、二人乗りでバランスを崩したり、スマホで前方不注意で、ヒヤリハットが多発していた。そのことは多くの人が感じていたので、皆が協力している。構内で事故をゼロにする。当たり前だが、協力が大切だ。



## 5月21日 熊野街道ウォーキング（その1）

本学の前身の一つは大阪女子大学で、その発祥の地は帝塚山（万代池の北）にある。その後、仁徳天皇陵の西の大仙に移転している。

この二つの旧キャンパスを結んでいるのが熊野参詣道の一つだ。京都を出発し、淀川を船で下り、大阪から陸路和歌山に至り、なお、南下して田辺市から本宮に至る。平安時代上皇が往復一か月かけてこの旅を行い、それは100年間に100回近く行われたと言われている。なかもず駅から中百舌鳥キャンパスへの道は西高野道だが、それとは三国ヶ丘駅の西で分岐する。

大阪女子大の同窓会「斐文会」に出席したときにその道を教えて頂き、次回までに歩こうと思っていた（半分、約束したところ、コメント入りの地図を頂いた）まま、次の同窓会（6月11日）が迫ってきた。暖かくなってからと思っているうちに、4月、5月は毎週のように週末も予定が詰まってしまうていたが、本日、時間がとれたので、出かけてみた。

旧キャンパス間は、全長8kmというので、一日で終わると思っていたが、暑かったのと、宝泉寺（等身大の石仏が13体ある）、東福寺（ポケ防止にご利益がある）、住吉大社（5月中旬は卯の花が美しい）など立ち寄るとあっという間に時間が過ぎたので、一日で廻るのは断念した。斐文会との約束を守るのが難しくなってしまったが、熊野信仰（蟻のように熊野詣がなされた）や府大の歴史を見つける機会として、少しずつ歩いていこうと思う。

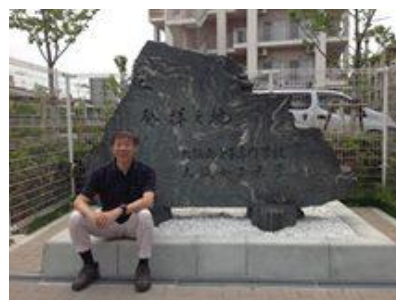
## 5月22日 大阪市立大学のボート祭に参加

第126回という伝統あるイベントに招待された。マーチングバンド、美術部のパフォーマンス、応援団の演舞など素晴らしい学生の活動を見せてもらった。主催者の方々のご尽力に敬意と感謝を表したい。

今回で5回目になるが、いくつかのことを学んだ。最初の年はスタートラインまで漕いで行くのが大変だった。ボートに限らず、新しいことに挑む時には、スタートラインに立つのは楽でないことを知るべきだ。

2年目は、レーススタート直後快調にリードした。そして、「勝てる」と思った途端、チームワークが崩れ、「お先に」と言われて追い抜かれた。ボートに限らず、勝負は途中で油断せず、最後まで冷静でいるべきだと学んだ。

3年目は、指導してくれた市大のボート部の副将のアドバイスにひたすら耳を傾けた。勿論、言われても体が動かないこともあったが、面白いように楽なのにスピードがでた。専門家のアドバイスは聞くものだ。何事に参加するときもそこから何かを学ぼうとする姿勢が大切だと思う。







広報できていないのかもしれない。そこは工夫していきたい。

2年前 首都大戦のなかのアイスホッケーに 自分の研究室の卒業生に 集まってもらって そこで盛り上がり、終了後、OB・OG会を行った。今年も できないかと思っている。いろいろなグループで工夫してほしいと思う。

### 5月26日 在学生の保護者のためのオープンキャンパス

大学のことをより良く知っていただき、安心感を持っていただきたいと願っている。後援会や校友会という活動がとても大切なことも知っていただきたいと思っている。

資料で説明したりしてもなかなか伝わらないので、実際に学生の話をお聴きいただき、キャンパスを見て回り、教員と会話してもらおうと考え、イベントを企画した。入学式でチラシを配布し、1, 2回生の保護者にダイレクトメールでご案内した。

数十名の参加しかないのでと心配したが、最終的に400名近い参加を得た。暑い日だったこと、予想を上回る参加者数だったこと、初めての企画だったことなどあり、行き届かないことが多かったと思うが参加して頂いた皆様、プレゼンテーションした学生さん、企画・準備してくれた教職員に深く感謝する。世界に翔く地域の信頼拠点として。



### 5月27日 大学史展示コーナー historia 開設のお知らせ

Historia とは、テレビ番組にもあるが、ラテン語で「歴史書」

という意味だ。先日、羽曳野キャンパスを訪問し、新任教員の方と懇談していた時に、「研修で「大学史」を学び、モチベーションがあがった」という話を聞いた。獣医講習所を創基として、130年以上の歴史をもつ本学であるが、ここを訪問すると、どのように発展してきたかがわかる（戦後、堺大学として設置申請しようとして、浪速大学として開学したが、「ろうそく代がく」と読まれるので、大阪府立大学と改名したそうだ）。

図書館ロビーにある。以前、新聞をおいていたところだ。説明ビデオ置きたい気がする。もう少し、英語での説明も加えたい気がする。ぜひ、一度訪問してほしい。

現在の展示資料は次の通りだ。校舎や授業風景の写真だけでなく、昔の入学金や授業料だけでなく、食堂の値段もわかる資料が展示されている。先輩のノートや当時の試験問題の例もある。

資料展示コーナー historia 開設記念展示  
大阪府立大学の歩み  
2017.5.25 THU. - 12.28 THU.

公立大学法人大阪府立大学は2005（平成17）年4月、大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学の府立三大学の統合・再編によって発足しました。三大学の前身校には、大阪社会事業短期大学や大阪府立看護短期大学のほか、戦前から存在した各種短期大学や私立短期大学が、それぞれ大阪府立大学の前身校として継承されています。1883（明治16）年設置の獣医学講習所に遡ることができます。このように大学の歴史を伝える写真や文書、書籍や教材など約30点を展示・紹介いたします。

大学史編纂研究所 × 学術情報センター図書館

5月28日 理系大学院女子チーム IRIS 任命

I am a researcher in science. この略称が IRIS だ。これまで多くの女子大学院生が地域の子どもたちに科学の面白さを伝えてきている。今年は 40 名の応募があった。過去最高だ。

大学院での研究活動の気分転換にもなるはずだ。子どもたちとの交流で新たな気づきもあるはずだ。他の研究室の学生と悩みを共有したり、うまい問題解決のヒントをもらえることもあるはずだ。

学びの「場」を提供する。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。



5月29日 新21研設立記念シンポジウム

5月31日 16時から、文科省の方、九州大学、大阪大学、早稲田大学の専門家をお迎えして、Research Institute for Light-induced Acceleration System (愛称：LAC-SYS=楽しめます) の設立記念シンポジウムがある。この21世紀科学研究所は、2007年当時の中西理事中心に構想されたもので、部局を超えた教員が外部の研究者とも協力して、新領域の研究分野を開拓したり、異分野の知見を融合して大切な問題解決に取り組むものだ。

従来、所長は教授と限定していたが、(規制緩和ではないが、)今年度から、准教授の先生にも所長に就任できるようにした。テニュアトラックからテニュアを取得した飯田先生(=LAC-SYS 所長)の熱意によるものだ。

遺伝子、タンパク質、細菌などの生化学反応を、「光を利用することで」加速・制御することを目指したものだ。難しく感じるので、私は「誘蛾灯プロジェクト」と勝手に名付けて、「光を灯せば虫が集まってくるように、細菌・細胞を集めて衛生検査したり薬剤輸送できるようになる」と理解している。タンパク質を蛾に見立てればアレルギー検査に応用することになる。少しデフォルメしすぎたかもしれないが、数年後に大きな成果が出るような予感がする。

5月30日 高専一年生に講義

中学を卒業して2か月足らずの一年生に対して「総合システム概論」の講義をする機会をもらった。160人の教室で、熱心に聞いてもらった。

データ処理から情報処理そしてさらには人工知能へとITの応用が広がっていることを話した。特にデータと情報の違いを「新



聞売り子」や「製品ミックス」という経営工学の基本的な例題を示しながら話した。さらにヒューマンインタフェースの大切さやプロダクトビジネスからサービスビジネスへの拡がりに高専生が活躍してほしいことも話した。

最後は十八番の天橋立、流れ星の話も紹介した。後日、レポートを見るのが楽しみだ。



5月31日 新年度になって2か月、卒業生はどうしているだろう？

今年卒業して就職した学生さんは元気になっているだろうか。職場は入職する前に想像していたものと同じだっただろうか。「こんなはずではなかった」ということが多くはないだろうか。

先日、関西私鉄五社の同窓会（最初の写真は藤原阪神電鉄会長の挨拶）に参加させていただいた。80名近い参加者があり、新人の参加も多数あった。まだ、研修中というケースが多いようだ。元気にスタートをきっている様子がわかり嬉しく思った。

私が研究室ももっているときには、「就職してすぐ思っていた職場と違うと感じてあたりまえ。（想像通りとか理想だと感じるなら、あなたがおかしいよ。）自分の思う職場像があるならそれに近づけるよう頑張る」ということをよく言った。そんなものだと思う。



## 6月1日 眠りから目覚めた関西国際空港

本日の関西経済論は、関西エアポート株式会社の代表取締役社長・CEOの山谷佳之氏（前ORIX代表執行役副社長）。刺激的なタイトル「眠りから目覚めた・・・」で講演を頂いた。関空は運営権者と空港管理者に分けて、同社は前者であって、ORIXは40%の株主の会社だ。

利用客を見るとここ数年インバウンドを中心に急増していることが分かる。東アジア4地域からの入国者はこの4年（13年=>16年）で2.8倍になっているそうだ。円安、ビザの要件緩和・免除、LCCの急増など追い風があったのだろうが、市場ニーズの変化に合わせた資産活用の転換に成功されている。

空港だけでなく、「眠りから目覚めた関西地区」となるように大学も教育研究を通して地域貢献をしていこう。学生さんにはこの関西国際空港からどんどん海外にでかけてほしい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

## 6月2日 地域包括ケアと地域保健学域

わが国では少子高齢化が急速に進んでいるが、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援のために、（病院ではなく）住み慣れた自宅（広くは地域）で、自分らしい暮らしを（人生の最期まで）続けることができる体制作りが大切だ。このことは、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）と呼ばれている。

本学の地域保健学域はこのような体制を支える人材を育成するとともにネットワーク（人脈）を構築することを想定し、看護学類、総合リハビリテーション学類、教育福祉学類を設けて、それぞれの専門性を学ぶとともに包括ケアについて理解することを期待している。奥野前学長の先見の明ともいえよう。

学域の名称から（どのようなことを学べるのか）理解しにくいかもしれないが、昨今の動向を少し調べるとこの学域の学問の重要性が分かるのではないだろうか。多くの高校生にこのことを伝え、少しでも受験生が増えることを期待している。在学生、卒業生を含め、関係者に協力をお願いしたい。

## 6月3日 前職入社同期と温泉でリフレッシュ

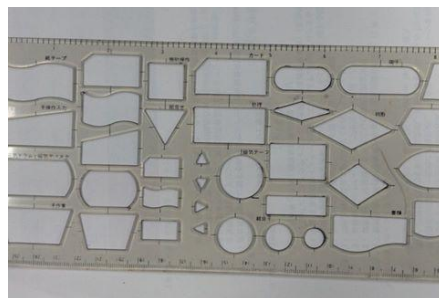
一週間前の週末のことだが、前職時代の入社同期と下呂・高山に一泊で同期会を行った。男性7名、女性3名、年齢は多様だ。2年で退社した人もいれば、いまだに勤務している人もいる。

78年入社だから、39年目で来年は40周年となる。当時は終身雇用が当たり前とされていたし、職場で定年になる方をみた覚えがない。長いような短いような……。時代は変わっても今でもつながりがある。大切にしたい。



## 6月4日 テンプレート

最近の学生さんは、「テンプレート」というと何を思い浮かべるのだろうか。Wikiで調べると「文書などのコンピュータデータを作成する上で雛形となるデータ」とあったが、私がシステム設計をしはじめたときには、文書は手書きだった。そして、テンプレートという図を描く時の絵を描く定規のことだった。写真のような定規がごくごく一般的であり、必須のものであった。これで方眼紙の上に図面を描いていた。



もともとは、建築物の梁受けで、そこから、鋳型のように働くさまざまなものを意味するように派生したようだ。言葉のルーツを探ったり移り変わって面白い。

## 6月5日 六研スタイル(8)

私が研究室をもっていたころは、六番目の研究室ということで、ロッケンと呼ばれていた。

当時は、研究室のお掃除当番を決めていた。ただ、自分の順番になっても忘れる学生がいる。そこで、大きなT定規に名前を貼って、掃除をしたら、次の学生に回すというアイデアにした。大きな定規が自分の机の周りがあると絶対に気づくし、邪魔になるので、さっさと次に回そうとするだろうと考えたからだ。



T定規……。今でも製図で使うのだろうか。CADを使うようになってもはや使われることはないのだろうか。

## 6月6日 ブータン農業の父：西岡京治氏

眞子さまがブータンを訪問されているときに、当地の「農業の父」のゆかりの地を訪問されたとの報道があった。西岡さんは、本学農学部(当時)のOBで、国王から「最高に優れた人」を意味する「ダショー」の称号(海外での受賞者はただ一名)を贈られた方だ。

このようにブータンは府大ともゆかりのある場所だ。西岡さんの恩師の中尾佐助先生が、照葉樹林帯を調査する中で、そこに生活する人々の文化要素に日本との共通点が多いことを発見、「照葉樹林文化論」を提唱している。その記録は、本学の学術情報センターからデータベースとして発信されている。なお、西岡氏は大阪市大の研究生ともなり、KJ法発案で著名な川喜多二郎先生と研究も行われている。

## 6月7日 シリコンバレーに出かけた大学生チームが報告に

りそな銀行様主催のアイデアコンテストで最優秀賞を頂いた府大・市大混成チーム。ご褒美に海外旅行のチケットを頂き、先月シリコンバレーに出かけた(宿泊費は自費)。

当地では、4月末に府大シリコンバレー同窓会に参加して下さった方々中心にお世話をいただいた。ありがたいことだ。



Google の本社にも行って社員食堂で食事をしたり、ベンチャ会社を訪問し意見交換したり、スタンフォード大学も訪問したという。それぞれ興味が違って、複数の野菜市場を見学した学生もいた。先に出発してヨセミテで岩登りをしようとした学生もいた。BARN や CALTRAIN などの鉄道に乗ったほか、Uber やバスにも乗ったということだ。

OBのご自宅にも招待いただき、深夜までお邪魔したというのにやさすがに驚いた。ESTA を持たずに空港に行き、慌てたという話も聞いた。

そのうち、一人は米国に留学、別の一人はフランスに留学。海外での学会発表を考えていたり、リーディング大学院で世界に翔くことも考えているらしい。慣れた時が海外は危険。よく注意してほしい。もっともっと話をしてくれそうだったが、他の用事があったので一時間で切り上げた。また別の機会に話を聴こうと思う。

### 6月8日 楽垣アート (11日まで) @ 310号線ぞいの垣根

堺しらすぎ Art Avenue 2017 ~雨上がりの~アート展」が、しらすぎ310商友会(白鷺周辺の店舗)と中百舌鳥公園団地店舗会主催で開かれている。学生が地域と協働して、まちを盛り上げていく。それをボランティア・市民活動センターが支援する。展示物は、「花まつり」や「友好祭」で学生と地域の子どもが一緒に作成したものだ。垣根にラクガキ。楽しい垣根。楽垣。

### 6月9日 名古屋同窓会 (4日)

工学部 OB で、三菱航空機株式会社のチーフエンジニアの岸信夫さんの講演「国産民間旅客機「MRJ」の開発と今後」を頂いたのち、懇親会。今回から大阪女子大学の OG の斐文会の方にも参加いただき、盛会でした。43年経済卒業の方が各地区同窓会で多いように感じます。私が寄稿した会報も配布されました。

会の前に学生時代の友人に会いました。5年ぶりぐらい。お互い子供が自立して、孫談義にもなりました。学生時代の友人っていいですね。

### 学長挨拶

大阪府立大学 理事長・学長 辻洋

名古屋校友会の皆様、いつもご支援頂きありがとうございます。昨年末、再任されましたので、この4月からもう2年間、理事長・学長を務めることになりました。微力ながら全力で大学運営・大学改革に携わってまいりますので、引き続きよろしくお願い致します。



近頃、欧米の動きをみている、画一的・排他的・閉鎖的な方向に向かっているのではないかと心配しているところです。一方、本学は「高度研究型大学 ― 世界に翔く地域の信頼拠点」を理念としてあげ、「多様」「融合」「国際」の三つの視点を大切にしています。

その二番目として、モリソンバのグローバル化は、10

### 6月10日 リーチとフォロワー

先日、「どの程度の利用者が見ていると思いますか」という質問を受けた。実際に読んでもらっているか、画面に表示されただけかはわからないが、リーチ数として分析結果を見ることができる。今回のその様子をスクリーンショットで示そう。

投稿内容で大きく異なるが、400人から1200人が多いようだ。シェアされるとその数は増えるほか、「いいね」をクリックされるとその数は増える。逆に、反応がないとそれほどは増えない。

ページに「いいね」をしてくれている利用者の男女別と年齢別もわかる。男性が70%だがこれが多いのか少ないのかどう評価すればいいのかはわからない。年齢層は結構ばらけているように思う。



少しでも読んでもらったならなんらかの参考になるような投稿を今後も続けていこうと思う。

## 6月11日 シリコンバレーの会社とサービスビジネス

先日、シリコンバレーツアーにでかけた学生が学長室に報告に来てくれたからか、ふと、97年前後に同地の会社とつきあっていたころのことを思い出した。

当時は、Googleの基本検索機能をスタンフォード大学で研究していた直後だったと思うが、このつきあっていた会社のソフトは、利用者が一度でもアクセスしたサイトを対象として、(そのURLを覚えていないだろうという仮定の下)、キーワード検索するものだ。例えば、「式辞 左海」というサイトを訪問した覚えがあるが、URLを覚えていないときなどに使える。グループウェア機能もついていて、同じイントラネット(例えば府大)の中の利用者がアクセスしたサイトで例えば、「キャンパスネットからこの一週間に100人以上がアクセスしたサイト」という検索もできる。

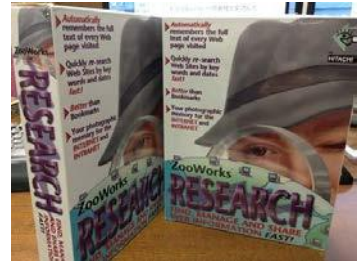
再び検索するということから、Re-Searchと名付けられた。無料で試用版をダウンロード可能としていた時には多数の利用者が出たが、有料にした途端、ほとんど使われなかった。製品としては失敗だったが、この技術はその後、ネット視聴率調査のサービスを提供する基盤に使われた。

このとき、IT分野の新しい技術では、製品として販売するプロダクトビジネスから、便利さを販売するサービスビジネスに転換したように感じた。最近はどうだろう。今後はどうだろう。技術を用いてプロダクトを造るだけでなく、技術を用いて価値を創り出すことが大切だ。

## 6月12日 府大オリジナルグッズ・コラボグッズ

このパンフレットは府大生協出発サポートプログラムの府大2回生が作成したもの。先日来、同窓会などで「なにわの育」を紹介(差し入れ)すると、「どうすれば購入できるのですか。お酒以外にもあるのですか。欲しいんですけど」という質問がよくでる。どのようなものがあるか、写真を見ていただければわかると思う。

府大マーク入りグッズだけでなく、地元企業との「つながり」で開発したもの(府大コラボグッズ)も多い。





6月13日 喜びと感謝をもう一度

昨年、大学改革支援・学位授与機構から受けた認証評価の結果の認定証が正式に届いた。「研究活動の状況」「地域貢献活動の状況」がいずれも「極めて良好である」ことを認定されている。昨年度、この二つともで「極めて良好である」と認定されたのは本学だけだ。

活動してきた教職員の皆さんに感謝するとともに改めてもう一度喜びたい。



6月14日 後援会を活用しよう！

学生生活の向上を目的とした後援会。課外活動、福利厚生、就職活動に対する援助を お願いしているほか、教育研究環境等の整備に対する援助も 行っている。会員は 学生の保護者あるいは 学生本人。

20日に I-site なんばで 理事会と評議員会があった。いろいろな支援をしていただいていることを 改めて知った (写真1)。ありがたいことだ。

チャレンジくん事業、100円朝食&サラダ提供サービス、国際交流支援、学長顕彰の副賞などいろいろある。こと起こし事業「河内物語」のお好み焼きソース (当日試食した)、「キャラクターマーチャンダイジング企業設立作戦」のグッズ (写真2 = 首都大戦でつけます)、チャレンジくん事業の「古墳ももっと好きになるギフト」のティーバッグ (写真3 = 古墳に見えますか)、「堺町歩き」のフリーペーパー (以前に紹介したことがある) などの 披露があった。とても すべては 紹介しきれない。

学生さんには、いろいろな募集があるので、ぜひ 応募するなど活用してほしい。

6月15日 府大 OG の水族館ガールの講演

木曜日に行っている関西経済論。今回は須磨海浜水族園の獣医師である毛塚千穂さんの水族館の裏話。

私も幼少時代から何度も通ったスマスイで活躍されている。海獣の健康管理 (体重計に載せるのは大変)、異物誤飲事故 (内視鏡を使う)、繁殖 (見守るのは大変) の話など写真、動画たっぷりで笑いと涙を誘うお話だった。学生時代の恩師は (国際防疫学の) 山崎先生で、

最近では死因を確定するため (病理学の) 山手先生と連携して論文発表もしているという。



最後は沈黙の海という詩の朗読だった。写真の4枚目にある。私は海釣りによくいくが、多様な生き物が持続的に存在する海（地球）であるために何をすべきかは、人類にとって大きなテーマだ。忘れそうになったときに水族園に行くと、必ずそのことを感じるができるだろう。



#### 6月16日 留学時に現地学生に可愛がってもらう方法

昨日、フランスのEISTIという大学院大学に、一年間、留学した卒業生が訪問してくれた。マテリアル工学専門だったが、なぜか私の研究室（当時、知能情報工学科）に出入りしていた。

彼がいうには、まず、スラングの辞書を買って、それを徹底的に使ったという。「儲かりまっか」とか「ボチボチでんな」というようなことだろう。すると、現地の学生が面白がって、（もっと）可笑しなスラングを教えてくれるらしい。「笑ってやろう」と思って（騙すかのように）教えているのかもしれないが、そこは逆手にとって騙されたふりをするといいようだ。「二度漬けあかんで」とでもいうのだろうか。すると、現地の学生はとても喜ぶ。こんなことを繰り返していると、可愛がってもらえて、現地の学生に溶け込めたという。

う～ん、確かに外人プロ野球選手の面白い日本語インタビューは結構受けるし、そのことにより親しみやすさも向上する。そういうことなのだろう。

いつまでたっても学生（今は卒業生だが）から学ぶことは多い。

#### 6月17日 「模擬」の重要性

実際の（大きな）ものを造らずに小さなものを作って設計の確認を行ったり、あるいは（作り直しのきかない）ハードウェアを作らずに（簡単に修正できる）ソフトウェアを作って動作を確認したり、実世界で実証すると時間がかかるのでコンピュータで計算したりすることがある。このことをシミュレーションするという。大切な手段だ。

シミュレーションの和訳は「模擬」だ。この単語からは模擬試験が思い浮かぶ。年に一度しか実際の試験がないので、事前に自分の実力を確認するとともに、腕試しや場慣れにも使える。

多くの場合、模擬試験は、自身の弱点を知り受験勉強の力点を定める重要なきっかけとなるはずだ。資格試験を受け（て合格し）ようと計画している学生さんは必ず模擬試験を受けるべきだ。もう一度書くが、気づいていない弱点を知り、不足している知識に気づくことに労を惜しんではならない。

#### 6月18日 世界遺産のある場所のキャンパスになりたい

近畿に世界遺産のないのは大阪府だけだ。国際学会など招へいするときによく「世界遺産〇〇のある〇〇市」とアピールされるので、堺市や羽曳野市にも世界遺産があってほしい。

世界遺産は「顕著な普遍的価値」のある場所が認定される。



以前は、文化庁からの推薦（一本釣り）で ユネスコに 申請をしていたらしいが、今は 国内で公募（競争）があり、そこで 推薦を勝ち取る必要がある。最近、「百舌鳥・古市古墳群」として 申請書を提出して 国の審査を待っている段階だ（7月末ぐらいに発表があるらしい）。



18日は市民の集い。副会長として主催者側の一人。国会議員、府会議員、市会議員などの来賓を迎え盛大な会になった。和歌山

県世界遺産センターの 辻 林浩氏（私と氏名が近いので登録の成果をあやかりたい）の講演の後、堺市出身の 黒谷友香さんの 特別対談があった（一番前に座っていたが、写真撮影は 報道陣以外には 許可されなかったので残念）。



誰もが、「なぜ ここの古墳ができたのか」「なぜ、それぞれの向きが違うのか」「どうして、どの天皇の陵だとわかるのか」などの 質問にこたえられるぐらいまで、地元に関心が高まり、未来に渡って、保存、保全していこうという意識が できあがらないと 登録は難しいらしい。大丈夫だろうか。「古墳」のことについては、後日、別途書きたい。

6月19日 関東在住者へ：応援に行こう 首都大戦

第65回の首都大戦が7月7日（金）から9日（日）までである。今年は首都大の南大沢キャンパスなどで実施する。過去は34勝26敗3引き分け。昨年度は三年ぶりに総合優勝。優勝旗は役員応接室に飾っている（写真）。今年も持ち帰りたい。



私は三日間とも応援に行く予定だが、特に、8日（土）のアイスホッケーには多くのOB（特に私の研究室のOB）も（ご家族連れで）参加してくれればと思う（防寒着必携）。昨年も一昨年も応援にいて、おおいに盛り上がった。

場所は西東京市東伏見のダイドードリンコアイスアリーナ。17時30分から20時だ。

6月20日 さくらサイエンスプラン 3件応募3件採択 次回締め切りは7月末。

平成29年度第2回の審査結果が届いた。31名の招へい枠を獲得。

(1) ベトナム国家大学ホーチミン港・科学大学 10名

(人間社会システム科学研究科・現代システム科学域) 興津先生

(2) 王立ブノンペン大学 11名

(人間社会システム科学研究科・現代システム科学域)、瀬田先生

(3) ダラット大学 10名

(工学研究科・放射線研究センター)、松浦先生

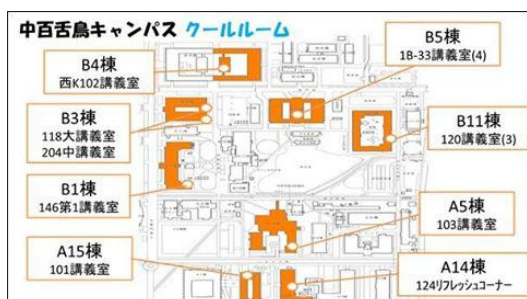
29年度はこれで5件応募4件採択（昨年度は15件応募で10件採択）。

このプログラムはJSTが運営しているもので、未来を担うアジア地域と日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることを支援してくれる。準備はそれなりに大変だが、相互にとって学ぶところは多い。受け入れ部署の学生さんには、ぜひ積極的に交流してほしい。

第3回の応募の締め切りは7月31日だ。私としては、もっともっと多くの先生方が、気軽に計画的に準備して応募してほしいと願っている。さらには、職員の方も企画提案(そして申請)にも期待している。世界に翔く地域の信頼拠点として。

6月21日 省エネ

E〜キャンパスの会(ええキャンパスのかい)がデザイン協力して作成したポスター。今年も省エネの季節です。ご協力よろしくお願ひします。昼食などはぜひクールルーム(場所は地図を参照のこと)とし、使っていない教室では節電してください。



6月22日 (祝) 企業の人事担当者から見たイメージ調査

先日、日経新聞に掲載され多くの方からお慶びを頂いた。すぐ、ここでも紹介しようとしたが、多くの方が紹介してくれたので一呼吸おいた。総合ランキング 9位。

日頃からランキングについて、いろいろな方からご心配の声をかけられるので、このような結果が出ると嬉しいだけでなく、ほっとする。自信を持ちたい。自分たちの教育に。そんな気持ちは教員だけでなく、職員も一緒だと思う。教職員OBも卒業生も在校生も保護者の方も。

6月23日 創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業に藤井教授課題が採択

本学が、キーパーソンとして認定し、サポートしてきた藤井郁雄教授。これまでも多くの成果を出されてきたが、下記の大きな事業でも研究開発代表者として採択になった。おめでとうございます!

先生の成果である立体構造ペプチドライブラリーをスクリーニングして、疾患関連タンパク質に対する分子標的ペプチドを提供するという。他の代表者が大きな大学の組織をあげてのものだけに、先生の奮闘ぶりが目立つ。多くの研究に貢献することが期待される。

6月24日 教育情報誌に保護者のためのオープンキャンパス

5月20日に開催した初の試み。入学式の時に予告し、関心の高さを感じてはいたが、協力してくれた学生さんや準備にあたった職員の方々は大変だったと思う。私にも経験があるが、いざとなると、前日まで参加者が数名しかいないという悪夢にうなされたようだ。



結果は400人近い参加者を得て、大盛況だった。そのときの様子が、教育PROという雑誌に掲載された。許可を得て、PDFで本学のWEBサイトで発信できることになった。教員、職員、学生が協力して、全員が広報大使。まだまだだが、広報にも伸びしろがある。

6月25日 渡欧予定

29日から6日まで 渡欧。場合により、投稿が できない日があるかもしれない。性分なので 仕方ないが、予定に 隙間があると、誰かに 会いたくなる。

29日：フランクフルト経由 ベルリン、 到着後知人家族と会食。

30日ー1日：研究会に 招待されて キーノート スピーチ。システム科学について、現代システム科学域やシステム発想型物質科学リーダ育成プログラムについても紹介（宣伝）してくる。演題は次。Forty Years Experience on R&D and Education of Systems Sciences.

2日：パリに 移動し、学生交換を 活発に行っている EISTI の学長と面談。加えて、過去に 府大に来てくれた 交換留学生とも 面談。

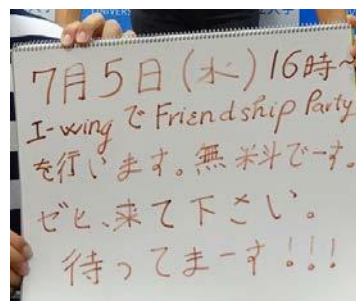
3日：鉄道で ドイツに 移動し、多くの学生が お世話になっている 人工知能研究所 DFKI を訪問。近くの カイザウストラウテルン大学も 訪問し、大学幹部を 訪問。

4日：空路、オーストリアの グラーツに 移動し、心理学と化学のお二人の先生と 面談。お二人とも 過去に 府大に ゲストプロフェッサーとして 見えており、お一人のところには 秋に マテリアル工学分野の教員・学生が訪問予定という。

5日：帰国の途に。関空ではなく、羽田に 6日 戻る。7日からの 首都大戦に そのまま 応援に向かう。東京では、以前もっていた研究室の OB 会を行ったり、カンボジアからの 来客と 面談。首都大戦の予定の詳細が 決まれば、ここで 紹介するつもりだ。

6月26日 留学生総会が主催する友好パーティ（7月5日）

写真にあるようにベトナムから留学している環境システム学類のファン・クイン・ウィンさんと知識情報システム学類の狭間君が学長室に来てくれた。用件は、5日に開催する Friendship Party で府大クイズを出すので、私からも問題を出してほしい、ということだった。先日の転倒のため、マスク姿だったのでボツになるかもしれないが、ビデオ撮影のもとで、府大に関することと自分に関することを出題した（もちろん、問題は当日まで厳秘）。パーティは16時開始で、参加は無料。





彼らは留学生総会 I S A のメンバーで、留学生だけでなく日本人学生も含め、15 名前後の学生が活動しているそうだ。「どんな問題にしようか」と聞いたら、「生協で売っている緑茶の名前は」とか「学長は毎日学校に来るのか」「・・・」「・・・」というのはどうかと言ってくれたので、「・・・」から選んで出題した。果たしてどれだけの正解者がでるだろうか。

## 6月27日 大学史を知ろう

本学の学校教育法に基づく「創立」は1949年で、その時に本学の前身の浪速大学と大阪女子大学が設立されている。さらに浪花大学の前身機関でいうと、1883年の大阪獣医学講習所の設立がもっとも古くて、それが今の大学の基を作ったということで、「創基」と言っている。他にもいろいろな前身の創立があって、1888年大阪府立農学校、1924年、大阪府女子専門学校、1939年（官立）大阪高等工業学校などをあげることになる。

歴史をたどるといろいろな教育機関や研究機関が統合して今日に至っており、とてもここでは書ききれないが、2013年に、大学史編纂研究所の山東先生がまとめられた「大阪府立大学：130年の歩み」を読むとよくわかる。学生さんには、これをテキストとした授業がある。新規採用の教職員には、導入時の研修がある。

これからは、同窓会やホームカミングデーでも許される時間で大学の歴史を紐解いていこうと思う。何事も（自分の専門分野にしる、自分の住んでいる地域にしる、自分の家系にしる）歴史を学ぶことは大切だ。たとえ、歴史観に対立することがあっても、相互理解のために、歴史を学ぶ姿勢を持ち続けたい。このように思うがどうだろう。



## 6月28日 化学実験 公開講座

3つの講座を夏休みに中百舌鳥キャンパスで開講する。詳細はチラシを参照されたい。

### (1) 小学生高学年向け

8月5日、6日午後実施。各日16組（小学生1名と保護者1名）。

14日締め切り。

### (2) 中学生向け

8月19日、20日、午後実施。各日3つのテーマに各8名。8月7日締め切り。

### (3) 高校生向け

7月30日午後実施、3つのテーマに各8名まで。21日締め切り。

6月29日 羽曳野市はブドウの産地

28日、ブドウを頂いた。羽曳野市のブドウだ。この季節ぶどう狩りも楽しめるようだ。

ワインも作っていて、市長にお会いした時に自慢されていた。飛鳥ワインとか河内ワインというので調べるとでてくる。



6月30日 みんなで府大広報のアンテナに

小学校5年の時に東京に転校した。東京タワーをみて、その大きさに驚いた。テレビやラジオの放送電波を送るだけでなく、緊急信号も送るそうだ。



2000年-02年にこの東京タワーに見える貿易センタービルでサラリーマンをしていた。そして、先日、公立大学協会の理事会でその近くに行った。スカイツリーに高さで抜かれたとはいえ、その存在は目立つ。

府大では、広報課を中心に、この10年発信力が強くなってきたと思うが、学内の（いろいろいいことをしているのに）情報収集ができていなかったり、（どのような学びができるかなど）受験生などに情報が届いていないことがある。残念なことだ。



そこで、みんなで府大情報のアンテナになってはどうだろう。東京タワーを見ていてふとそう思う。東京タワーのように大きくて一つあるのではなく、小さくてもいいから100本いや1000本あるアンテナ。受信も発信もする中継機能をもつアンテナ。どうすればいいだろう。

ちなみに、アンテナの英語の語源は昆虫の触覚だそうだ。